



MinebeaMitsumi Group  
CSR REPORT 2018

## 目次

目次・編集方針・会社概要	1
トップコミットメント	3
社会の中でのミネベアミツミ製品	5

## 特集1

地域と考える ミネベアミツミグループのCSR ～ミツミ電機 千歳事業所～	7
--	---

## 特集2

世代を超えて、地域に根差す ～タイでの事業活動に見るCSR～	11
-----------------------------------	----

## 特集3

「従業員が誇りを持てる会社」を目指した カンボジア工場の挑戦	15
-----------------------------------	----

## HOT TOPICS

照明の常識を超える新たなスマートライティング	16
------------------------	----

## マネジメント報告

CSR推進活動の目標と実績	17
ミネベアミツミグループのCSR	19
コンプライアンス	21
リスクマネジメント	22

## 社会性報告

お客様とのかかわり	23
従業員とのかかわり	25
お取引先様とのかかわり	28
地域社会・国際社会とのかかわり	29
株主の皆様とのかかわり	31

## 環境報告

環境マネジメント	32
地球温暖化防止の取り組み	34
資源の有効活用の取り組み	35
環境負荷物質削減の取り組み	36
製品における環境への取り組み	37
第三者意見	38

## 編集方針

本レポートはミネベアミツミグループとして、ステークホルダーの皆様にご覧いただくCSRに対する考え方、取り組みについてお伝えすることを目的に制作しています。

2017年度レポートでは、事業活動を行う周辺地域とのコミュニケーション事例を特集記事でご紹介しています。国内事例はミツミ電機千歳事業所で行った地域の方々にご参加いただいたのステークホルダー・ダイアログの様子を、海外事例は地域に根差したCSRを推進するタイでの活動と、従業員とともに成長してきたカンボジア工場の取り組みについて、現在の姿をご紹介します。

また、続く「マネジメント報告」「社会性報告」「環境報告」のページでは、CSR目標に対する取り組みの進捗状況を報告しています。

CSRレポートの発行は、読者であるステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの一つであると考え、適切で分かりやすい報告を心掛けています。当社グループCSR活動について率直なご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。なお、今年から別途統合報告書を刊行しています。財務およびガバナンスなどについては「ミネベアミツミグループ統合報告書2018」をご覧ください。

## 報告書の対象範囲

ミネベアミツミおよびグループ会社:95社

## 報告書の対象期間

2018年3月期 (2017年4月1日～2018年3月31日)

ただし、上記期間以前や2018年度の活動も一部含まれています。

## 発行情報

2018年9月発行 (前回: 2017年9月発行) (次回: 2019年9月発行予定)

## 参考にしたガイドライン

一般財団法人日本規格協会「ISO26000:2010」  
GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」  
環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

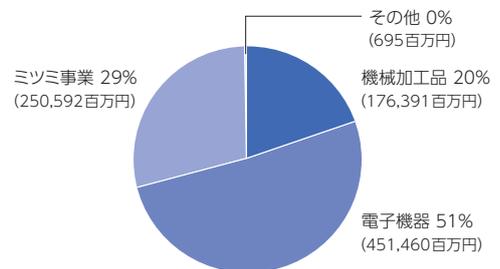
## 報告書に関するお問い合わせ

ミネベアミツミ株式会社 人事総務部門 CSR推進室  
TEL: 03-6758-6724

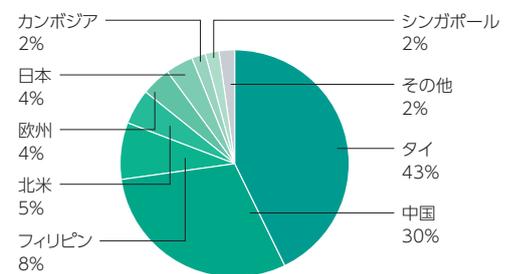
## 会社概要 (2018年3月末時点)

社名	ミネベアミツミ株式会社 (MinebeaMitsumi Inc.)
本社所在地	〒389-0293 長野県北佐久郡御代田町 大字御代田4106-73 TEL: 0267-32-2200
東京本部所在地	〒108-8330 東京都港区三田3-9-6 TEL: 03-6758-6711
設立年月日	1951年7月16日
資本金	68,258百万円
代表者	代表取締役 会長兼社長執行役員 貝沼 由久 (かいぬま よしひさ)
事業内容	機械加工品事業、電子機器事業など
売上高	連結：879,139百万円
営業利益	連結：79,162百万円
経常利益	連結：78,038百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	連結：59,382百万円
従業員数	連結：78,351名
連結子会社数	90社

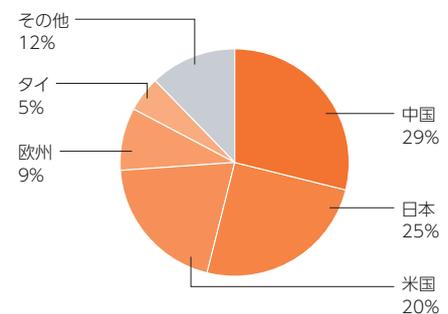
## 事業別売上高 (2017年度)



## 地域別生産高 (2017年度)



## 地域別売上高 (2017年度)



## CSRウェブサイト掲載情報 <http://www.minebeamitsumi.com/corp/environment/>

ミネベアミツミグループウェブサイトでは、コーポレートガバナンスや冊子に掲載しきれなかったより詳細な情報と最新の活動報告についても随時公開しています。また、投資家向けの情報も掲載していますので、併せてご覧いただければ幸いです。

▶ 投資家向け情報

▶ CSRレポート2018詳細情報

▶ 最新CSR活動情報

▶ コーポレートガバナンス情報



# トップコミットメント

## 2017年度を振り返って

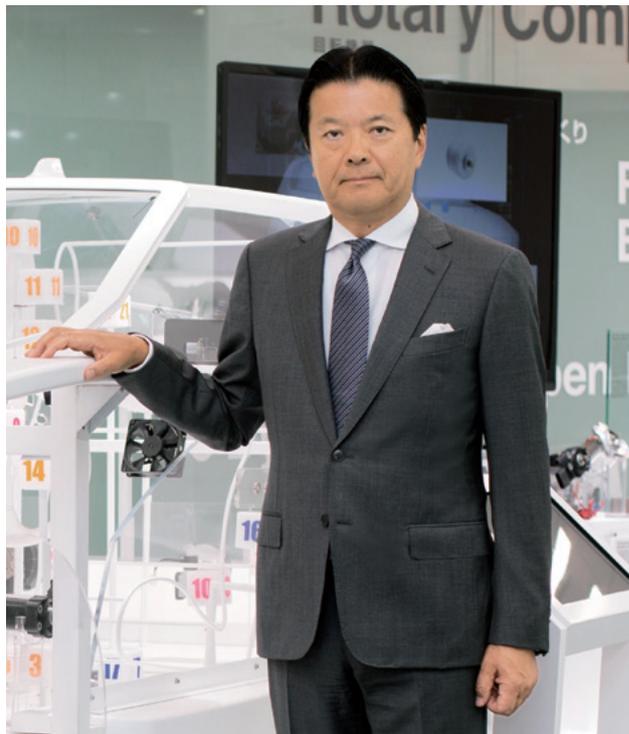
2017年度は、米国の貿易政策を発端とした円高が進行するなど、経済の先行きに対する不透明感が高まり、周辺状況が厳しさを増した1年でした。しかしその中で、昨年1月に経営統合したミツミ事業の収益が大きく伸びたこともあり、全体として増収増益を実現しています。2018年3月期の決算では、売上高は前年同期に比べ37.6%増の8,791億3,900万円、営業利益は61.5%増の791億6,200万円、純利益は44.3%増の593億8,200万円となり、売上高、営業利益、経常利益、純利益のすべてにおいて過去最高となりました。

こうした結果を生み出したのは、常に社会ニーズに的確に対応しながら事業を展開してきたからこそだと考えています。機械加工品事業は、自動車の省エネや安全性の追求、電気自動車需要の拡大といったニーズに応えることで堅調に推移しました。電子機器事業では、液晶用バックライトは既存技術の改良により堅調で、車載モーターは急速に伸張しています。また、ミツミ事業の好調については、すべての製品が好調だったことに加え、グループ全体のシナジーを生かし、徹底した技術指導を通じて生産性を改善したことが大きかったと考えています。

中期目標として掲げた売上高1兆円／営業利益1,000億円という数字の達成も視野に入ってきました。世界でも類を見ない「真の総合精密部品メーカー」として、さらに前進していきたいと思っています。

一方、社会的責任という点についても、社是である「五つの心得」の精神のもとでの体制構築をグループ全体で推進しています。CSRマネジメントをより強固なものにするため、新たに加わったミツミ電機の国内拠点においてもCSR活動の啓発と現状把握を行う「CSRオフィサー」を設置しました。

また、ミツミ電機千歳事業所では2018年5月、千歳市長や地元大学関係者など地域の人たちとの地域ダイアログを実施しました。地域にとって「より必要な存在」となっていくため、さらなるコミュニケーションの深化を目指しています。



ミネベアミツミ株式会社  
代表取締役 会長兼社長執行役員

## 貝沼由久

こうしたさまざまな取り組みをグループ全体に広げ、「五つの心得」を実践に移していくこと。それが、ミネベアミツミグループとしてのCSRのあり方だと考えています。

## 「相合」で新たな挑戦を

今後も社会に求められる会社であり続けるためには、CSR基本方針にあるように、地球環境および人類の持続可能な発展に貢献できる製品を開発していくことが不可欠だと認識しています。そのためには、環境問題をはじめとする社会課題を的確にとらえ、グループが持つ多角的な強みを融合・活用していくことが重要です。

こうした姿勢から生み出された「新製品三羽鳥」と社内でも称している製品が現在、成果を生み出しつつあります。

まず、LED照明器具「SALIOT(サリオ)」。照明方向の上下左右、調光、配光角度、色温度を手元のスマートフォンやタブレットで自由自在に操作できます。環境性能が高いことはも

もちろん、これまで長時間かかる深夜の展示会場などの高所での照明調整もスマートフォン一つで行えるため、現場の方たちの働き方改革にもつながります。

二つ目は、介護市場向けベッドセンサーシステムです。高精度荷重センサーとシグナルの解析技術の組み合わせによって生まれたもので、ベッドの脚の下に取り付けたセンサーによって利用者がベッドのどのあたりで寝ているのか、参考体重、体動などを利用者に触れず、高精度にモニタリング。高齢者施設での見守りサービスをはじめ、医療・介護の幅広い分野での支援に活用できます。

そして三つ目がスマートシティソリューションです。数年前より、カンボジアで無線ネットワークを活用した高効率LED街路灯の導入事業を展開してきました。従来のナトリウム灯に比べ温室効果ガスの排出量を約80%削減し、カンボジア環境大臣賞も受賞しています。さらに、道路灯のネットワークに各種センサーを接続した実証実験を進めています。道路灯を、都市生活の利便性・安全性向上などにつながるシステムとして進化させるべく、さらなるチャレンジを継続中です。

もちろん、事業の中核として位置付けている「7本槍製品（ベアリング、モーター、センサー、コネクタ/スイッチ、電源、無線/通信/ソフトウェア、アナログ半導体）」についても、引き続き経営資源をしっかりと投下し、社会にさらなる価値を提供していきたいと考えます。

## 「真摯なものづくり」への思いの共有を

ミネベアミツミグループは創業以来、社会の要請に対し「より良品を、より早く、より安く、より多く、そして賢く」提供していく「真摯なものづくり」を積み重ねてきました。この姿勢は、今後も変わらずグループ全体で徹底していきます。

さらに、コーポレートスローガン「Passion to Create Value through Difference」のもと、ニッチな分野で高い技術と実績を持つ当社グループの強みを生かしつつ、常識を超えた「違い」で新しい価値を創造していきます。また、持続的成長を支える取り組みとして、環境・社会・ガバナンスに配慮した「ESG」経営を重視しながら進めてまいります。具体的には、エネルギー消費の低減などに資する各種製品を社会に送り出すことにより、環境負荷の低減と環境保全活動を推進し、世界的に解決が求められる持続可能な開発目標（SDGs）のような社会課題にも貢献できる、社会にとって「なくてはならない会社」になっていきたいと思っております。

本レポートでは、当社グループが現在取り組んでいる事業活動、そしてCSR活動について、多彩な角度からご紹介しています。皆様からのご意見とご要望を今後の企業活動に積極的に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞ忌憚のないご意見をお寄せください。

## 新製品三羽鳥



### 照明器具 SALIOT

- ▶ 国内外美術館、博物館、ホテル、百貨店などで豊富な実績
- ▶ タイ・カンボジア、欧米、中国などワールドワイドで拡販に取り組む
- ▶ 追尾モデルなど製品ラインナップを拡充



### センサー ベッドセンサーシステム

- ▶ 2018年7月、リコー様と協業し、介護施設向けに発売
- ▶ 海外での拡販も視野
- ▶ 将来は、在宅ケアへの展開も見込む



### センサー/照明器具 スマートシティソリューション

- ▶ カンボジアで課金ビジネスを開始
- ▶ 2018年秋より外部販売開始
- ▶ グローバル拡販活動の強化

# 社会の中のミネベアミツミ製品

## スマートシティ・インフラ Smart City & Infrastructure

- |                                      |   |  |   |
|--------------------------------------|---|--|---|
| ソーラー発電<br>Solar Power Generators     |  | スマートライティング<br>Smart Lighting Devices   |  |
| 風力発電<br>Wind Power Generators        |  | スマート道路灯<br>Smart Street Lights         |  |
| 蓄電池モジュール<br>Battery Modules          |  | 駐車場<br>Parking Sensors                 |  |
| スマートメーター・バルブ<br>Smart Meters / Bulbs |  | セキュリティカメラ<br>Security Cameras          |  |
| スマートロック<br>Smart Locks               |  | エレベータ・エスカレータ<br>Elevators / Escalators |  |
| 自動改札機<br>Automatic ticket gates      |  | EV 充電スタンド<br>EV Charging Stations      |  |

## インダストリー Industry

- |   |   |
|---|---|
| 産業機械<br>Industrial Machinery                  |  |
| 産業用測定機器<br>Industrial Measurement Instruments |  |
| ATM<br>ATMs                                   |  |
| POS<br>POS Terminals                          |  |



## メディカル・ヘルスケア Medical & Health Care

- |   |   |
|---|---|
| CTスキャナ・X線検査装置<br>CT Scanners / X-ray Machines |  |
| デンタルハンドピース<br>Dental Handpieces               |  |
| 医療用輸液ポンプ<br>Medical Infusion Pumps            |  |
| 検体検査装置<br>Laboratory Equipments               |  |
| 介護・見守り関連機器<br>Nursing Care Products           |  |
| 体重計<br>Bathroom Scales                        |  |
| 血圧計<br>Blood Pressure Monitors                |  |
| 血液浄化装置<br>Blood Purification Machines         |  |
| アルコールチェッカー<br>Alcohol Breath Testers          |  |

## ロボット Robotics

- |                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| ドローン<br>Drones                        |  |
| コミュニケーションロボット<br>Communication Robots |  |
| 協調型ロボット<br>Cooperative Robots         |  |
| 手術ロボット<br>Surgical Robots             |  |
| 産業ロボット<br>Industrial Robots           |  |

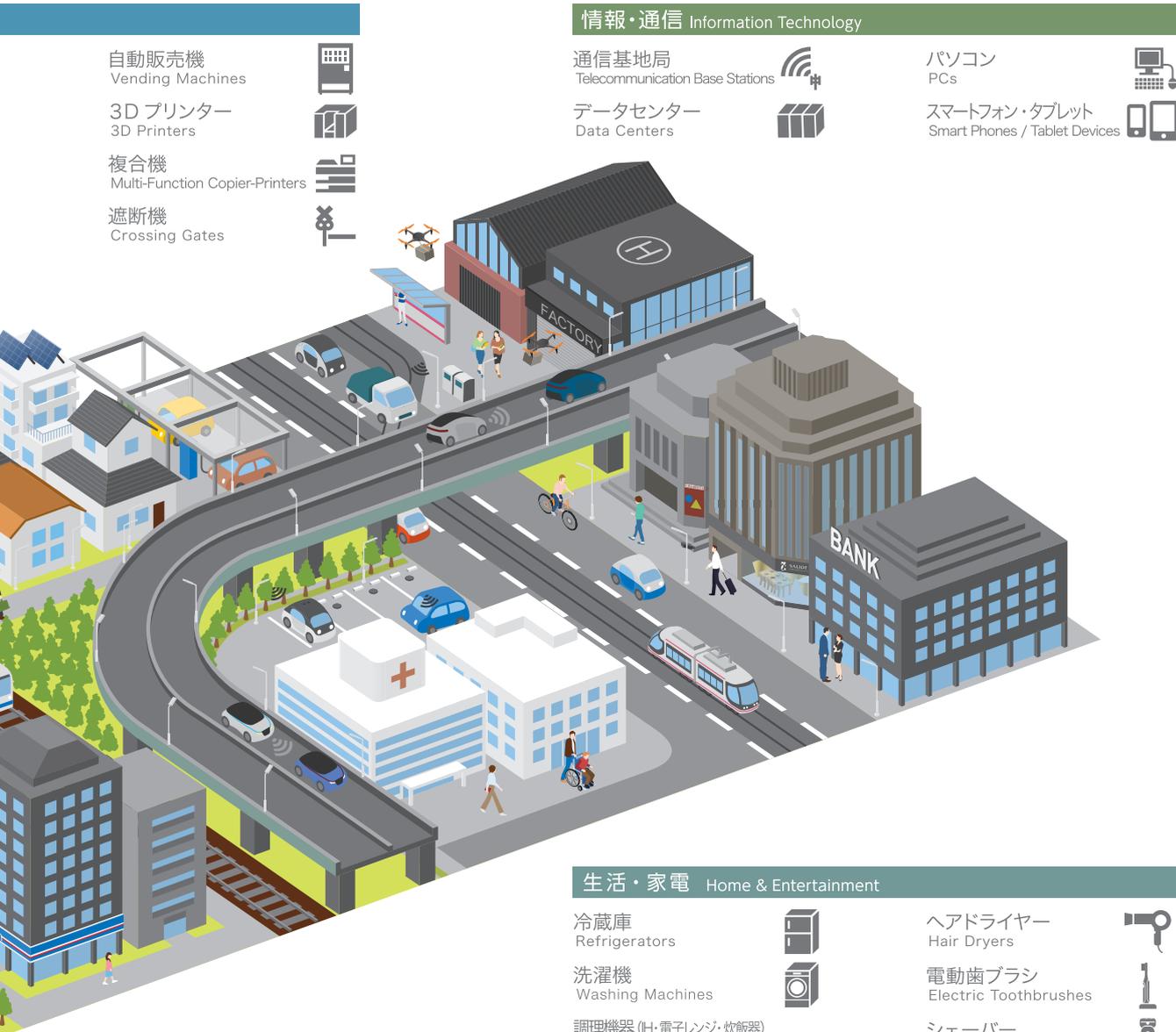
## 航空・宇宙 Aviation & Space

- |  |   |
|--|---|
| 航空機<br>Aircraft                        |  |
| 人工衛星・宇宙探査機<br>Satellites / Space Craft |  |

## 移動手段 Transportation

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| 自動車<br>Automobiles       |  |
| EV<br>Electric Vehicles  |  |
| E-bike<br>Electric Bikes |  |

わたしたちが製造するボールベアリングやモーター、電子機器は、さまざまな最終製品に組み込まれ、人々の生活を支え、豊かな社会の実現に貢献しています。  
このページでは、普段は目にする事の少ないわたしたちの製品が、社会の中でどのように役立っているかをご紹介します。



情報・通信 Information Technology

- 自動販売機  
Vending Machines
- 3Dプリンター  
3D Printers
- 複合機  
Multi-Function Copier-Printers
- 遮断機  
Crossing Gates

- 通信基地局  
Telecommunication Base Stations
- データセンター  
Data Centers

- パソコン  
PCs
- スマートフォン・タブレット  
Smart Phones / Tablet Devices

生活・家電 Home & Entertainment

- 冷蔵庫  
Refrigerators
- 洗濯機  
Washing Machines
- 調理機器 (IH・電子レンジ・炊飯器)  
Cooking Appliances (Induction Cooker / Microwaves / Rice Cooker)
- 掃除機  
Vacuum Cleaners
- エアコン  
Air Conditioners
- 扇風機  
Electric Fans
- 空気清浄機・加湿器・除湿器  
Air Cleaners / Humidifiers / Dehumidifiers
- 温水洗浄便座  
Bidets
- テレビ  
Televisions
- セットトップボックス  
Set Top Boxes
- DVD・BD  
DVD / Blu-ray Disc Players
- デジタルカメラ・アクションカメラ  
Digital Cameras / Action Cameras

- ヘアドライヤー  
Hair Dryers
- 電動歯ブラシ  
Electric Toothbrushes
- シェーバー  
Shavers
- フィットネス機器  
Fitness Equipment
- 美顔器  
Facial Equipment
- 玩具  
Toys
- ゲーム機器  
Game Devices
- バーチャリアリティ機器  
VR Equipment
- 自動翻訳機  
Automatic Translation Devices
- 電動工具  
Power Tools
- 釣具  
Fishing Equipment
- スーツケース  
Suitcases

- ロケット  
Space Rockets

- 鉄道車両  
Trains
- 船舶・モーターボート・ウォーターバイク  
Ships / Motor Boats / Water Bikes
- トラム・ライトレール  
Trams / Light Rails



## ダイアログ参加者一覧

### 千歳市の皆様

市長	山口 幸太郎 氏
副市長	横田 隆一 氏
産業振興部長	島倉 弘行 氏
産業振興部産業支援室長	品田 雅俊 氏
産業振興部産業支援室企業振興課長	澤田 篤 氏
産業振興部産業支援室科学技術振興課長	林 博樹 氏
産業振興部産業支援室企業振興課企業振興係長	塚田 啓介 氏
産業振興部産業支援室企業振興課企業誘致係長	井戸川 邦彦 氏
企画部秘書課長	堀田 裕 氏

### 千歳科学技術大学の皆様

学長	川瀬 正明 氏
専務理事	渡邊 信幸 氏

### ミネベアミツミ、ミツミ電機

常務執行役員 人事総務本部長	松田 達夫
半導体事業部 事業推進部長	久米 卓史
半導体事業部 ウエファ製造部長	坂井 司
半導体事業部 事業推進部 次長	橋本 稔
半導体事業部 事業推進部総務課長	平井 睦雄
CSR推進室 室長	石河 正樹
CSR推進室 主任補	越後 麗湖

### 進行役

株式会社クレアン コンサルタント	富田 洋史 氏
------------------	---------

※参加者の役職は開催時のもの(2018年5月22日)

2018年5月、ミツミ電機の千歳事業所(北海道千歳市)にて、地域の方々にご参加いただいたの  
ステークホルダー・ダイアログを開催しました。

今後の連携や協力についてさまざまな意見や提案が出され、活発な議論となりました。

## はじめに

**松田** 本日はお忙しい中をありがとうございます。2017年1月、ミネベア株式会社は、ミツミ電機株式会社と株式交換を通じて、同社を完全子会社化し、経営統合をしました。これに伴い「ミネベアミツミ株式会社」が誕生しました。現在、世界17カ国に64の製造拠点があり、その一つがここ千歳事業所です。

ミネベアミツミの社是である「五つの心得」の一つに「地域社会に歓迎されなければならない」というものがありま

す。この心得のもと、地域社会との関係性を深めるべく、さまざまな地域貢献活動にも取り組んでまいりました。今日は、ご参加いただきました皆様からのご意見・ご要望を今後の活動へ生かすために、連携や協力をレベルアップしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



ミネベアミツミ 松田

## 千歳事業所と地域のつながり

**久米** 千歳事業所は、1983年にこの地で操業を開始。以来35年間、半導体の製造を行っているものづくりの拠点です。従業員は現在500名弱ですが、特に前期、今期と非常に忙しい状況が続いており、人手不足が大きな課題になっています。



ミツミ電機 久米

**橋本** 地域とのかかわりでは、操業開始当時から「交通安全」に力を入れて取り組んでいます。従業員が街頭に立って交通指導を行うほか、啓発活動として、交通安全協会が募集する交通安全年間スローガンに、毎年応募しています。事業所内で選定した作品を千歳の交通安全協会に提出するのですが、ほぼ毎回何らかの賞を受賞して、市内各地に掲示いただいています。



ミツミ電機 橋本

環境関係では事業所内で回収したペットボトルのキャップやリングブルの社会福祉協議会への寄付、事業所周辺での清掃活動・フラワーポットの設置などを長年続けてきました。また、献血活動にも20年以上にわたり協力しており、2017年には日本赤十字社から「金色有功章」をいただきました。

**山口氏** 経営統合されましても引き続き千歳市との連携を深めてくださっていることに感謝申し上げます。日本を代表する企業の皆様が千歳で製造・営業活動をし、持てる技術や情報を世界に発信していただいていることが、千歳市の価値を高めることにもつながっていると感じています。



千歳市 市長 山口氏

## 地域をあげた働き方改革

**山口氏** さて、千歳市が今、力を入れて取り組んでいるのが「働き方改革」です。いわゆる公務員倫理にのっとった改革だけではなく、働く人のライフスタイルに合わせた職場改革という観点が必要ではないかと考え、試行錯誤しているところです。職場改革は働き方改革、働き方改革は生き方改革だという思いで市内にイクボス<sup>※</sup>を増やすため、企業などへの普及を進め、仕事と家庭生活が調和し、心豊かに子育てなどができるまちの実現を目指して取り組んでいます。

※職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランスを考え、キャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のこと。

**横田氏** その一環として、2017年1月、市長以下幹部職員・管理職を対象とした「イクボス研修」を実施し、出席者全員で「イクボス宣言」を行いました。まずは職員の意識を変えることから始めようと、セミナー開催などの活動を始めています。



千歳市 副市長 横田氏

千歳事業所ではワークライフバランスに関する取り組みをどのように進めておられますか。

**橋本** 千歳事業所では、有給休暇の取得を推進しています。現状では平均して一人年間15日程度取得していますが、人による偏りがあるのは意味がありません。そこで全員が年間10日以上取得するという目標を立てました。また、残業時間についても、年間の目標時間を設定し、その時間以下にとどめようという取り組みをしています。

また、千歳事業所は女性従業員が少ないので取得されることがなかった育児休業についても、昨年初めての取得者が出ました。さらに今年は、男性従業員が取得予定です。少しずつではありますが、意識が根付いていると感じています。

**横田氏** 時代の要請でもありますが、できるだけ取り組みを進めていただきたいと考えます。それが千歳市の「住みやすい、働きやすいまち」というイメージにもつながっていくとうれしいです。

## 災害時の協力体制構築を

**島倉氏** このような場ですので、ぜひご協力をお願いしたいのが災害時の対応についてです。千歳市では、樽前山の噴火や地震、風雪害などを想定した「千歳市地域防災計画」を策定し、毎年、さまざまな関係機関にご協力いただきながら総合防災訓練を実施しております。



千歳市 産業振興部長  
島倉氏

さらに現在、50の企業や商店、団体と、災害時の協力協定を締結しています。ミネベアミツミ様とは協力協定を結んでおりませんが、災害時の地域住民への物資の提供などでご協力をお願いしたいと思っています。

**橋本** わたしたちの事業所も、地震や異常気象、火災、感染症といった非常事態発生時に、従業員を守り、事業を継続するためにどう行動すべきかをまとめたBCP(事業継続計画)マニュアルを策定しています。災害時には事業所内に災害対策本部を設置することになっています。その災害対策本部人員30名の約3日間の活動用、また帰宅困難になった従業員60名、社員寮の寮生100名への支給用に食料や水の備蓄をしています。数量的には多少多めに備えておりますので、いざというときには工業団地全体で活用いただくことは可能と思っています。

**島倉氏** 企業や事業所によってさまざまな特性があると思いますので、それを生かした部分での連携・協力を進めていければと思います。

**横田氏** 以前から参加いただいている「千歳工業クラブ」と千歳市は一昨年、連携協定を結ばせていただきました。各社の所有する物資や資源を包括的に活用させていただくという内容もその中に含まれていますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

## 産学連携で新たな価値を生み出す

**川瀬氏** 千歳科学技術大学は、1期生が卒業した2002年ころからミネベア様にも就職などでお世話になっており、今回の経営統合には非常にご縁を感じています。本学は2019年から市の大学法人として公立化が決定しています。貴社ともさらに充実した形で連携していけるのではないかと考えております。



千歳科学技術大学 学長  
川瀬氏

**山口氏** まさに産官学の連携で、いろいろな付加価値が生まれてくるのではないかと期待しています。千歳市としてもできる限り協力させていただきますので、ぜひ貴社からもご提案やご要望をお願いします。

**川瀬氏** 例えば今、文部科学省が進める「ナノテクノロジープラットフォーム」は、全国25カ所の拠点に、高度な分析機器などを設置し、企業に使ってもらうという取り組みです。わたしたちの大学もこの拠点の一つとなっており、市内の企業さんにも利用いただいております。貴社にもぜひ利用いただきたいと思えます。

**坂井** 実際に、担当者レベルではお願いしたいという話が進んでいますので、ぜひこれからよろしく願いいたします。



ミツミ電機 坂井

## 地域人材に活躍いただく

**川瀬氏** また、これまで本学の卒業生十数名が貴社に就職させていただいているのですが、ここ5年ほどは実績がありません。これを機に、採用面でも関係を再構築させていただければと思います。インターンシップや情報交換会などの取り組みも進めておりますので、それをきっかけにいただければ幸いです。

## 環境のまち・千歳の実現に向けて

**石河** 市が掲げるテーマの一つに「人と地球にやさしい環境のまち」とあることを千歳市のパンフレットで拝見しました。具体的にはどんな取り組みをされているのでしょうか。

**島倉氏** 2012年に市長の名前で環境宣言を行い、基本理念と行動指針を定めました。それに基づき、市独自の環境マネジメントシステム「エコアクション」を構築して、省エネルギーや環境負荷の低減に努めています。また、この取り組みを事業所に広げるため、千歳版環境マネジメントシステム認定制度「ECOちとせ」も創設。認定事業所も60社を超え、市全体で取り組みを進めているところです。

**石河** 今後、ぜひ連携ができればと思います。

**坂井** 環境に関して一点お願いです。半導体事業は、グリーンルームを常に冷房で冷やす必要があります。

千歳市は気温が低いため非常に有利ですが、それでもかなり大量の電力が必要になります。北海道は他の地域と比較して電気料金が大きく、その意味ではデメリットになってしまいます。北海道電力様とも交渉は続けているのですが、同業他社など電力を必要とする企業が増えれば状況も変わってくるのではないかと思いますので、できれば市のほうからも企業誘致を進めていただきたい。それによって千歳市、北海道のさらなる活性化にもつながると思います。

## おわりに

**松田** 本日は貴重なお時間を割いていただき、たくさんのご意見をありがとうございました。千歳市から見て、地元はこのミネベアミツミがあることを誇りに思っていただけの会社を目指したいと思っております。そのためにもこれを機に、継続的なコミュニケーションを充実させ、いろいろとご指導・ご提案いただければと思っております。お互いに理解しあえる存在としてつながっていければと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

**松田** 2018年4月入社ではグループ全体で新卒を120名採用、そのほかに前期は中途で150名を採用しました。事業の変化のスピードが速くなっている中、それに対応できる即戦力が必要だということで中途採用の割合が高くなっているのですが、一方で、新卒の採用も増やして戦力として育てていきたいという考えもあります。千歳事業所でも人手不足が顕著ですし、2019年4月入社の新卒も190名という大量採用を予定しております。ぜひよろしくお願ひいたします。インターンシップも、できるだけ前向きに受け入れたいと思っております。

**渡邊氏** 新卒で入社された方が戦力とみなされるまでにはどのくらいの期間が必要でしょうか。

**松田** 部署にもよりますが、営業でも技術でも、やはり5年は続けてもらいたい。ある程度長い目で見ることがあると感じています。



千歳科学技術大学  
専務理事 渡邊氏

**渡邊氏** なるほど。わたしどもの調査では、相当数の卒業生が3年以内に離職しているという結果が出ていますが、実情はどうなのでしょう。また離職を減らすために何か対策は講じておられますか。

**松田** 離職率は非常に低くて3.4%です。やはり、若い層からシニア世代まで、働きやすい職場だということではないかと自負しています。

**久米** 特に、千歳事業所はグループの中でも離職率は低いほうです。

**坂井** ある従業員が「どうもこの業務は不向きだ」というときには、別の部署に移ることができることも、離職率が低い理由の一つだと思います。

**松田** そうですね。自分から手を挙げて「他の部署に異動したい」と言える仕組みがあります。せっかくミネベアミツミで働くのであれば、やりたいことに取り組んでモチベーションを上げてもらったほうがいいと思うのです。

## THAILAND

- ロップリ工場
  - アユタヤ工場
  - ロジャナ工場
  - パンパイン工場
  - ナワナコン工場
- バンフ工場
- バンコク
- チョンブリ工場



ミネベアミツミグループ最大の生産拠点であるタイ。  
進出してから約40年の歴史の中で進めてきた現地のCSRをご紹介します。

### 最大生産拠点として、タイ社会への責任

ミネベアミツミグループのタイでの事業は、1980年、首都バンコク北部のアユタヤ県への会社設立を機に始まりました。以来、約40年かけて6つの工場に拡大。2017年のミツミ電機との経営統合に伴ってバンコク南東部のチョンブリ工場が加わり、現在は7つの工場を展開しています。タイの7工場を合わせた生産高はグループ全体の約40%を占めており、当社グループ最大の生産拠点となっています。

従業員は全体で約3万5千名おり、外資系企業としてはタイで最大規模の雇用主です。工場近くの地域ではたくさんの方が当社で働いており、親子二代で働く人も多数いま

す。また、世界各国への製品輸出額は年間約3,500億円にのぼり、タイの経済発展にも大きく寄与しています。地域社会における当社の存在感と認知度はともに高く、現地を統括する今仲総支配人は「これだけの規模になると、必然的に地域との関係が重要になってきます。従業員と地域社会の両方の期待にしっかりと応えていくことが大切です」と話します。

### グループ社は「五つの心得」でCSRを実践

タイにおいても、ミネベアミツミグループの社は「五つの心得」がCSRの基本です。マネジメントは、CSR委員会が

#### 五つの心得

- ▶ 従業員が誇りを持てる会社でなければならない
- ▶ お客様の信頼を得なければならない
- ▶ 株主の皆様のご期待に応えなければならない
- ▶ 地域社会に歓迎されなければならない
- ▶ 国際社会の発展に貢献しなければならない



常務執行役員  
東南アジア総支配人  
今仲 政幸

ISO26000を参考に実施しています。特徴的なのは、各工場が地域の皆様と直接対話し、各地域の課題に即したテーマを設定してプロジェクトを進めていることです。プロジェクトの結果は必ず次の計画に反映させています。こうした一連の取り組みが評価され、タイ工業省からCSR-DIW※賞を9年連続で受けました。

地域社会へ果たすべき責任として、環境活動にも注力しています。タイ国内の工場は、設立時から省エネ工場を目指しています。一部の工場では排水をすべて集め、法令以上の厳しいレベルまで浄化して敷地内で利用する「工場排水ゼロシステム」を採用しています。これは、事業継続性の上からも非常に重要な取り組みです。また、敷地内の食堂から出る食品廃棄物を堆肥化するとともに、そこから発生するバイオガスを調理に利用してLPガスの使用を減らすなど、積極的に環境負荷の低減に取り組んでいます。

さらに現在、特に力を入れているのが、CSRの情報発信です。活動を取りまとめる今仲総支配人は「CSR活動については役員会議、幹部会議での重要報告事項としタイのウェブサイトにもタイ語と英語にて活動の詳細を掲載してローカル幹部職員のみならず全従業員への浸透を図っています」と説明します。さらには、従業員向けのコミュニケーションツールとして、CSRに関する小冊子を制作し、月に1回全従業員に配布することで社内浸透にも力を入れています。

※CSR-DIW:Corporate Social Responsibility, Department of Industrial Works

## 従業員が誇りを持てる会社に

タイでは「五つの心得」の中の「従業員が誇りを持てる会社」を目指しています。人材育成プログラムの充実には特に力を入れています。具体的には、新入社員向けのオリエン

テーション研修から、業務研修、階層別研修、繰り返しの教育研修といった形で、体系的な研修機会を提供しています。また、すべての従業員が業務の目標を持ち、それに基づき業績評価するシステムを確立しています。

従業員が安心して働けるように、公平性や人権の尊重、ダイバーシティ推進、労働安全衛生も進めています。人権に関して方針を策定するだけでなく、違反の防止や罰則のための手続きも整えています。また、タイ労働省の基準であるTLS 8001-2010を採用して第三者からの認証を受けています。ダイバーシティに関しても、ジェンダーや宗教による差別を禁止するだけでなく、食事や施設などで宗教上の配慮を行うなど、多様な価値観を尊重しています。

タイ独自の活動として、「Happy Workplaceプログラム」を行っています。従業員の心身の幸福度向上に寄与するこの取り組みは、リーマンショック後の心の停滞感を軽減し、働きがいを感じてもらうために開始しました。ハート、リラックス、ファミリーなどの8テーマに、多くの従業員が参加し、主体的に活動しています。

アクソーン人事マネージャーは「タイは現地メンバーが中心で運営を行っているため、タイの従業員が成長し、満足できる環境をつくるのが重要です」と活動の理由を説明します。その一方で、タイでも高齢化が進んでいることに伴い、若年層の人材確保が課題となっています。

## 地域社会に歓迎されるための活動

地域の皆様から求められる活動を進めています。2017年度は各工場が定めるテーマのほかに、インフラ整備や教育支援など幅広いテーマで80のプロジェクトを行い、ステークホルダーの皆様との良好な関係づくりにつなげています。



CSR-DIW 賞表彰の様子



工場排水ゼロシステムのための設備



バイオガス貯蔵タンク

ロップリ県では、2016年から寺院の仏堂の建設を始めました。建設に際しては、2年間かけて従業員に寄付を呼びかけました。仏像の制作や、仏堂周辺での植樹活動にも従業員が協力しています。仏堂は地域住民に心の安穩をもたらす場所として、2018年中にオープンする予定です。ロジャナ工場責任者のウィラは「このプロジェクトを通じて、従業員のチームワークが良くなったと感じます。また、近隣との関係性が良くなり、すべてのステークホルダーにとって良い取り組みとなりました」と振り返ります。

また、ホアイ・ヤン・ヌン貯水池の水門修理、灌漑施設の補修、稚魚の放流、植樹に協力しました。水門は約20年放置されており、近隣では、水不足に陥っていました。近隣の村長・ロアップ氏は「ミネベアミツミが修理してくれ、水の管理ができるようになり、水を農業にも酪農にも効果的に使えるよう

になりました」とした上で、「以前は村人が何人か勤めている会社くらいにしか知られていませんでしたが、今回の活動によってミネベアミツミのことが地域に理解されたと思います」と話します。

一方、地域の子どものたちの育成につながるさまざまな支援も行っています。例えば、アユタヤ県プラ・インタラチャ町では、2016年から保育施設に対して、制服やシーツ・枕カバーの寄付、コンピューター教育への支援を行っています。町長スーチョーチャ氏は「コンピューターの知識に触れることは子どもたちにとって重要で、可能性を与えてくれるものです。これからも一緒に地域の発展に協力していただきたい」と期待を寄せています。さらに、工場ごとに毎年、支援する教育施設を決め、その学校の要望にそった活動を行っています。

### CASE 1 地域の交通整備

工場周辺の交通施設を整備しています。地域の方や従業員がバス停を快適に使えるように屋根やベンチを整備しました。また、2018年には車の交通量も多く、車道の横断が危険なショッピングセンターへの通路として、歩道橋の設置に寄付しました。

「従業員への配慮に加え、地域へ支援をしてくれるミネベアミツミで働けて誇りに思います。」

「バス停は公共交通を利用する方を助け、コミュニティに利便性をもたらします。」

CSR委員会メンバー  
Pinphaka Nadej  
Teerapath Puangkaew



### CASE 2 水耕栽培教育支援

タムレイタイ・プロドサッド小学校において、2017年から野菜の水耕栽培ができる設備を提供し、水耕栽培の研修を始めました。研修により、3種類の野菜を水耕栽培で育て、それらを調理して付加価値を高めて販売できるまでになりました。

「健康ブームのおかげで水耕栽培のニーズが高まっていますので、学ぶ機会の少ない水耕栽培での育て方を支援してもらい、非常に感謝しています。」

先生  
Ms. Kanchana Duang-arthit





建立中の仏堂と近隣住民の皆様



植樹の様子



保育施設へのシーツ・枕カバーの贈呈

### これからも地域に根付いて真摯なものづくりを

タイに進出してから約40年。ミネベアミツミでは「よりよき品を、より早く、より安く、より多く、そして賢く」という「真摯なものづくり」をコンセプトに事業活動を行ってきました。こうした活動を継続していくためにも従業員と地域社会が

らの支持が必要になります。今仲総支配人は「当社のタイオペレーションは地域の皆様とともに発展してきました。これからも環境と従業員に配慮し、地域からの期待に応えていくことが、マネジメントの使命だと思います。また、地域の皆様とのコミュニケーションをもっと深め、わたしたちの取り組みをもっと知ってもらいたいです」と抱負を述べます。

### CASE 3 子どもたちへの環境教育

ワット・バンヒー小学校で、ごみの分別の環境教育を継続して支援しています。生ごみ、再生可能廃棄物などの識別方法を伝えるとともに、分別用容器を学校内・地域に寄付しました。今後、リサイクル可能なごみを集めて収益化して学校や地域に役立てていく予定です。

「活動のおかげで学校だけでなく、地域も非常にきれいになりました。良い町になり、うれしく思います。」

先生  
Mr. Uthai Malijai



### CASE 4 学校の設備支援

バンクムタエ小学校で、交通安全にかかわる支援を行っています。学校敷地内に車やバイクが通る道があるため、交通標識やフェンスを寄付し、子どもたちの安全を守っています。また、遊具の補修や塗装を行うなど、さまざまな支援を行っています。

「ミネベアミツミからの支援は非常に役立っています。安全設備を入れていただいたことでコミュニティの意識も変わってきています。」

先生  
Ms. Kansuya Boonkerd



# 「従業員が誇りを持てる会社」を目指した カンボジア工場の挑戦

ミネベアミツミの主力工場にまで発展したカンボジア工場。従業員とともに成長してきた挑戦の経緯と、現在の姿を紹介します。

カンボジア工場がプノンペン経済特区に設立されて7年。約5千名の従業員数と10万㎡の床面積を誇る大規模拠点となった同工場には、これまでの組立工程だけでなく部品の機械加工工程が移管されるなど、ミネベアミツミの主力工場の一つとしての新たな役割が求められています。

カンボジア工場での生産を支えるのは、現地で採用した従業員です。「従業員とともに成長する」という基本姿勢のもと、人材教育に一貫して注力。操業開始当初には読み書きができない従業員も少なくありませんでしたが、始業前に国語の勉強会を開催し、参加を呼びかけ続けた結果、識字率は100%を達成しました。さらに近年では、より付加価値の高いものづくりに対応できるよう、現地の大学や専門学校で電子工学・機械工学を学んだ学生も多く採用。専門技術についても、地元の職業訓練学校との連携により勉強の機会を提供しています。

また、現地の従業員の誰にでも管理職に登用されるチャンスがあることが大きな特長です。誰もが最終的にはマネージャー職まで目指せる開かれた昇格制度により、ラインリーダー、シニアラインリーダーとして活躍する従業員も増えました。これは、「カンボジア人は現場作業で、外国人がその管理者」という一般的な風潮とは一線を画したものです。従業員の間には「自分たちの工場を自分たちで良くしていく」という意識が年々高まっています。こうした背景から、生産性は着実に向上してきました。

## CAMBODIA

プノンペン経済特区



2018年には新たな従業員寮を整備し、だれもが安心して快適に暮らせる環境づくりを進めました。ミネベアミツミの社は「五つの心得」にもある「従業員が誇りを持てる会社」の実現を目指し、カンボジア工場の挑戦は続いています。



カンボジア工場人事総務メンバー

## VOICE



### ミネベアミツミの従業員として働くことが誇りです

Minebea (Cambodia) Co., Ltd.  
Manufacturing Micro Actuator  
Labor Control  
**Hakley Am**

わたしは2011年からカンボジア工場で働いています。入社後3カ月間のタイ研修の後、カンボジアに戻りマイクロアクチュ

エータ課で製造に携わりました。タイで学んだことをカンボジア工場の従業員に伝えられるように勉強を続けてきました。こうした努力や、業務の経験が評価されて、オペレーターからスタッフへの昇格試験のチャンスをもらいました。今ではスタッフとして勤務しており、「優れた従業員」の表彰をいただきました。

カンボジア工場では多くの従業員がやりがいをもって働いています。わたしも自分の仕事が大好きです。ミネベアミツミの従業員として働くことが誇りです。

スマートライティングの世界を広げる新型LED照明器具SALIOTをご紹介します。

### 新型LED照明器具 SALIOT

「SALIOT(サリオ)」は、ミネベアミツミの持つさまざまな技術を組み合わせた新型LED照明器具です。照明方向の上下左右、調光、配光角度、色温度などをスマートフォンやタブレットから独自開発のアプリを使い自由自在に操作することができます。

「SALIOT」の開発に当たり、これまでミネベアミツミが培った、超精密機械加工技術と光学技術を活用し、光を自在に操る超薄型LED照明用レンズを開発しました。

さらに、無線技術などを付加することにより、その活用範囲を大きく広げました。



新型LED照明器具 SALIOT

### 多様なシーンでの活用

あらゆるシーンに最適な光を作り出すことが可能な「SALIOT」は、多様な場所で活用することが可能です。大型・高天井のショッピングセンターや、カーディーラーなどのショールーム、博物館・美術館、教育施設、イベントスペース、ホテルなど、その可能性は多岐にわたります。

2017年9月には、多くのお客様にその可能性を体験いただくために、東京本部の近くに「SALIOTギャラリー」を開設しました。200台超の「SALIOT」を設置しており、実際に操作することも可能です。



SALIOTギャラリー

### 照明で働き方を変える

大型・高天井に設置される従来型照明の調整は、脚立や調整棒などによる手作業が必要なため、作業労力と長い時間が必要でした。展示中は照明の調整ができないため、夜間や深夜帯の作業となることが担当者の負担でした。

「SALIOT」は、スマートフォン一つでさまざまな制御が可能だけでなく、シーン設定を行えば、一瞬で異なる空間を作り出すことができます。そのため、「SALIOT」を活用いただくことで、長時間かかる深夜の照明調整を、簡単・安全で低コスト・短時間という作業に変えることができます。

ミネベアミツミは、さらに照明器具の研究開発を進め、皆様の暮らしに役立つ製品をお届けできるよう、これからも挑戦を続けていきます。



やりづらかった高所作業



「SALIOT(サリオ)」は、高コスト・長時間という問題もあった高所作業を解消し、簡単・安全で低コスト・短時間の作業に変えます



地上からいつでも安全に作業が可能

# CSR推進活動の目標と実績

## ▶ 2017年度実績と2018年度および中期目標

		2017年度目標	2017年度実績
マネジメント	CSRマネジメント	ミネベアミツミグループとしてのCSRマネジメント体制の構築推進 <b>CSR</b>	ミツミ電機の国内拠点担当者を決め、CSR浸透活動を実施
	コーポレートガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント	中国およびフィリピンでの体制構築および研修によるコンプライアンスの浸透推進 <b>コンプライアンス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国において体制構築および研修を実施</li> <li>● タイにおいて、コンプライアンスをテーマとしたセミナーを実施</li> </ul>
		コンプライアンス従業員意識調査の実施 <b>コンプライアンス</b>	ミネベアミツミグループの国内外で勤務する日本人従業員7,600名を対象にコンプライアンス意識調査を実施
		タイのロップリ工場で、BCP基本計画および行動計画を策定 <b>総務</b>	タイのロップリ工場で、BCP基本計画を策定。行動計画は策定中(2018年度に策定予定)
	国内事業所、タイなどにおけるBCP訓練の推進 <b>総務</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 軽井沢工場で年3回のBCP訓練を実施</li> <li>● タイで洪水対策のシミュレーション訓練を実施</li> </ul>	
社会	お客様とのかかわり	品質マネジメント規程の改訂、施行および周知 <b>品質</b>	品質マネジメント規程の改訂、施行および周知を実施
		ISO9001:2015認証への移行支援 <b>品質</b>	15事業部中10事業部について、ISO9001:2015への移行を実施
		全製品への統一バーコードラベルの導入推進 <b>物流</b>	機械加工および電子機器製品への統一バーコードラベルの導入
		AEO認定の継続的取得推進 <b>物流</b>	マレーシア、欧州でのAEO認定の取得活動推進
		物流品質向上のための見える化の推進 <b>物流</b>	納期情報、物流情報、在庫情報の見える化の推進
	従業員とのかかわり	人権尊重に対する教育の継続的強化 <b>人材開発</b>	階層別研修でのハラスメント教育や人権尊重に関する教育を実施
		ミネベアミツミグループとしての次世代リーダー育成の強化 <b>人材開発</b>	ミツミ事業本部を対象とした次世代リーダー研修の実施
		女性活躍の継続的推進 <b>人材開発</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 管理職に意識改革のための交流機会を提供</li> <li>● 主任補層に意識改革、役割再認識のための研修を実施</li> </ul>
		障がい者雇用の法定雇用率達成と雇用維持 <b>人事</b>	障がい者雇用率1.67%(2017年6月時点)
		ストレスチェック結果に基づく職場環境改善の推進 <b>人事</b>	国内全事業所でストレスチェックを実施し、結果に基づき職場ごとに対応を推進
		残業時間の継続的削減 <b>人事</b>	各部署への注意喚起、勤怠管理システム導入などを推進
	お取引先様とのかかわり	ミネベアミツミグループとしての統一的なCSR調達活動の推進 <b>資材</b> ・統一CSR調達ガイドラインの設定、お取引先様への配布およびCSR取り組みの依頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ミネベアミツミグループとしてのCSR調達ガイドラインを統一</li> <li>● 統一したCSR調達ガイドラインを国内外のお取引先様1,337社に配布し、CSR取り組みを依頼</li> </ul>
	地域社会・国際社会とのかかわり	国内外の拠点における地域との対話促進 <b>CSR</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 軽井沢工場において、継続的に地域との対話を実施</li> <li>● タイのアユタヤ工場で、地域の人を招待し、CSR活動の説明など、対話を実施</li> </ul>
株主の皆様とのかかわり	事業計画の進捗および施策に関する積極的な情報開示の継続的推進 <b>IR</b>	株主総会、年2回の報告書送付、ウェブサイトなどを通じ、中期事業計画および施策の情報開示を推進	
	国内外の投資家との積極的なコミュニケーションの継続的推進 <b>IR</b>	合計年4回の機関投資家・証券アナリスト向け決算説明会および決算説明電話会議、年1回の欧米・アジアでの投資家訪問などを推進	
環境	CO <sub>2</sub> 排出量を生産高原単位で2015年度比で6%削減する <b>環境</b>	2015年度を基準年として、CO <sub>2</sub> 排出量原単位で1%削減(為替影響を除くと6.3%削減。排出量実績は、771,594トン)	
	廃棄物等排出量を生産高原単位で2015年度比で6%削減する <b>環境</b>	2015年度を基準年として、廃棄物排出量を生産高原単位で2.9%削減(為替影響を除くと8.4%削減。排出量実績は、87,663トン)	
	廃棄物の再資源化率を97.2%とする <b>環境</b>	廃棄物の再資源化率は、98.1%	
	用水使用量を生産高原単位で2015年度比で6%削減する <b>環境</b>	2015年度を基準年として、用水使用量を生産高原単位で2.7%削減(為替影響を除くと7.9%削減。用水量実績は、6,570,269トン)	
	生物多様性保全の推進 <b>環境</b>	生態系への悪影響を防ぐための3R、排出ゼロなどを推進	
	パレタイズ荷姿化のさらなる推進 <b>物流</b>	機械加工および電子機器製品についてのパレタイズ荷姿化をほぼ完了	
	海上コンテナの積載効率向上に向けた梱包改善の推進 <b>物流</b>	海上コンテナの積載効率向上に向けた梱包改善の全体の考え方を整理し、ロードマップの基本的な構想を実施	



## CSR推進活動の目標と実績

ミネベアミツミグループでは、CSRの取り組みを進める上で、PDCA\*のサイクルを適切に回してマネジメントしていくこ

とが重要であると考え、CSR目標を定め取り組んでいます。

\*Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことによって、管理業務を継続的に改善していく手法。

評価	2018年度目標	中期目標(2020年度めど)
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミツミ電機の海外拠点でCSR担当者を設置し、CSR浸透活動を実施 <b>CSR</b></li> <li>ミネベアミツミグループとしてのCSR重要課題を設定 <b>CSR</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーの期待・要請理解を通じたCSR重点課題をベースとした、CSRマネジメントの推進 <b>CSR</b></li> </ul>
△	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィリピンでの体制構築および研修によるコンプライアンスの浸透促進 <b>コンプライアンス</b></li> <li>コンプライアンスに関するeラーニング研修の実施 <b>コンプライアンス</b></li> <li>ミツミ電機の主要生産拠点でのBCP策定推進 <b>総務</b></li> <li>タイのロップリ工場で、BCP行動計画を策定 <b>総務</b></li> <li>国内事業所、タイなどにおけるBCP訓練の推進 <b>総務</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミネベアミツミグループとしてのグローバルコンプライアンス体制の構築・強化 <b>コンプライアンス</b></li> <li>世界主要拠点でのBCPの定着 <b>総務</b></li> </ul>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>フタル酸エステルのフリー化の推進 <b>品質</b></li> <li>サプライチェーンの品質マネジメントのためのサプライヤー・マニュアルの展開 <b>品質</b></li> <li>ISO9001:2015認証への移行の継続支援 <b>品質</b></li> <li>ミツミ製品への統一バーコードラベルの導入 <b>物流</b></li> <li>RFIDタグ試験のスタート <b>物流</b></li> <li>AEO認定の取得および継続活動の推進 <b>物流</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミネベアミツミグループとしての新体制における品質マネジメントシステムの構築 <b>品質</b></li> <li>ロボットによる省人パイロットモデル倉庫の運用開始 <b>物流</b></li> </ul>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重に対する教育の継続的強化 <b>人材開発</b></li> <li>ミネベアミツミグループとしての次世代リーダー育成の強化 <b>人材開発</b></li> <li>女性活躍の継続的推進 <b>人材開発</b></li> <li>障がい者雇用の法定雇用率達成と雇用維持 <b>人事</b></li> <li>残業時間の継続的削減 <b>人事</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルでの事業の拡大、発展を積極的に推進するための人材開発強化 <b>人材開発</b></li> <li>女性管理職の割合の増加(2021年に2016年の2倍を目標とする) <b>人事</b></li> <li>社会的要請を積極的にくみ取りつつ、従業員が生き生きと働くための施策推進 <b>人事</b></li> </ul>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミツミ電機の国内主要お取引先様に対して、「CSR調達推進自己チェックシート」によるCSR推進状況の確認 <b>資材</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミツミ電機のアジアでのお取引先様に対して、「CSR調達推進自己チェックシート」によるCSR推進状況の確認 <b>資材</b></li> </ul>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の拠点における地域との対話促進を継続 <b>CSR</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外でのCSR浸透活動の継続的実施 <b>CSR</b></li> </ul>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画の進捗および施策に関する積極的な情報開示の継続的推進 <b>IR</b></li> <li>国内外の投資家との積極的なコミュニケーションの継続的推進 <b>IR</b></li> <li>統合報告書の発行 <b>IR</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの株主・投資家の皆様にミネベアミツミへの理解を深めていただけるよう、積極的な情報開示とコミュニケーションの継続 <b>IR</b></li> </ul>
△	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量を生産高原単位で2015年度比で9%削減する <b>環境</b></li> <li>廃棄物等排出量を生産高原単位で2015年度比で9%削減する <b>環境</b></li> <li>廃棄物の再資源化率を97.3%とする <b>環境</b></li> <li>用水使用量を生産高原単位で2015年度比で9%削減する <b>環境</b></li> <li>生物多様性保全の推進 <b>環境</b></li> <li>海上コンテナの積載効率向上に向けた梱包改善の推進 <b>物流</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量を生産高原単位で2020年度までに2015年度比で15%削減する <b>環境</b></li> <li>廃棄物等排出量を生産高原単位で2020年度までに2015年度比で15%削減する <b>環境</b></li> <li>廃棄物の再資源化率を2020年度までに97.5%とする <b>環境</b></li> <li>用水使用量を生産高原単位で2020年度までに2015年度比で15%削減する <b>環境</b></li> <li>生物多様性保全の推進 <b>環境</b></li> </ul>

CSR CSR推進室 **コンプライアンス** コンプライアンス推進室 **総務** 総務部 **品質** グループ品質管理室  
**物流** 物流部 **人材開発** 人材開発部 **人事** 人事部 **資材** 資材部 **IR** IR室 **環境** グループ環境管理部

トップ  
 ミネベアミツミグループ

社会の中の  
 ミネベアミツミ製品

特集1

特集2

特集3

HOT TOPICS

マネジメント報告

社会性報告

環境報告

# ミネベアミツミグループのCSR

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、企業の使命とは法令の遵守だけでなく、企業倫理に則した公正かつ、適切な事業運営を通じて、地球環境および人類の持続可能な発展に貢献することと考えています。この使命を果たすため、当社グループでは、社是として位置付けた「五つの心得」と、これを基本とした「ミネベアミツミグループのCSR基本方針」および「ミネベアミツミグループのCSR実践に向けた活動方針」を策定し、取り組みを進めています。

2015年4月に、「CSR実践に向けた活動方針」を改定しました。製品を通じて社会にプラスとなる価値をつくるという考えに基づき、「製品を通じた社会価値の創造」の項目を追加しています。

また、2012年に参加を表明した国連グローバル・コンパクトの10原則や、2015年に国連持続可能な開発サミットにおいて採択されたSDGs(持続可能な開発目標)についても重要な考えと位置付け実践に努めています。

### 五つの心得

- ◎ 従業員が誇りを持てる会社でなければならない
- ◎ お客様の信頼を得なければならない
- ◎ 株主の皆様のご期待に応えなければならない
- ◎ 地域社会に歓迎されなければならない
- ◎ 国際社会の発展に貢献しなければならない

### ミネベアミツミグループのCSR基本方針

ミネベアミツミグループは、社会を支える精密部品メーカーとして、「信頼性が高く、エネルギー消費の少ない製品を安定的に供給し、広く普及させる」ことを通して、地球環境および人類の持続可能な発展に貢献します。

### ミネベアミツミグループのCSR実践に向けた活動方針

#### 1) 「五つの心得」と「行動規範」

CSR活動の推進に当たっては、「五つの心得」を基本として、適切な組織統治のもと、ミネベアミツミグループ「行動規範」を遵守していきます。

#### 3) 継続的改善と意識向上

ミネベアミツミグループの社会的責任、取り組むべき重要課題を理解した上で達成すべき目標を掲げ、実行とレビューを繰り返して、CSR活動を継続的に改善していきます。また、こうした活動を通して、従業員一人一人のCSRIについての意識向上を図っていきます。

#### 2) 製品を通じた社会価値の創造

社会を支える精密部品メーカーとして、「信頼性が高く、エネルギー消費を減らす製品」を積極的に開発し、広く普及させます。

#### 4) ステークホルダーとの対話

ステークホルダー(従業員、お客様、株主の皆様、地域社会、国際社会、お取引先様、環境など)との積極的な対話を通して、その期待・要請に応えるとともに、企業活動の透明性向上と説明責任を果たしていきます。

#### ▶ ミネベアミツミグループのステークホルダー



#### ▶ 国連グローバル・コンパクトの支持



#### ▶ SDGsの支持





## ミネベアミツミグループのステークホルダー

ミネベアミツミグループは、社是の「五つの心得」で示されている「従業員」「お客様」「株主の皆様」「地域社会」「国際社会」のほかに、「お取引先様」およびわたしたちの社会を支えている「環境」をステークホルダーとして分類しています。当社グループでは、CSR活動に取り組む上で、各ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、その期待に応えることが欠かせないと考えています。

## CSR推進体制

ミネベアミツミグループは、「ミネベアミツミグループのCSR基本方針」および「ミネベアミツミグループのCSR実践に向けた活動方針」を基に、CSR活動を推進するために、最高責任者を社長執行役員、最高責任者補佐を常務執行役員人事総務部門担当とするCSR推進体制を構築しています。

また、CSR体制のさらなる強化と社内推進活動の発展などを行う事務局として、CSR推進室を設置しています。各拠点でCSR活動の啓発と現状把握を行うCSRオフィサー（正担当）、CSR副担当と連携し、グローバルでのPDCAマネジメントを推進しています。

引き続きCSR活動を推進するため、グループ全体での体制の強化に取り組んでいきます。

## CSR活動の現状整理

ミネベアミツミグループでは、社会的責任に関する国際規格であるISO26000に基づき、「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティへ

の参画及びコミュニティの発展」の7つのテーマと「社会的責任の認識および組織全体への統合」について、当社グループの取り組み実施状況と重要度を確認し、優先的に取り組みが求められる課題について洗い出しを行っています。

分析の結果、世界各拠点と本社とが連携したCSRを体系的に進めることや、拠点間で先進事例を共有していくことの必要性を確認しました。

今後はISO26000による現状分析の結果に加え、SDGsへの貢献を見据えたCSRの重点課題策定に向けて、準備を進めていきます。

## 社内でのCSR浸透活動

ミネベアミツミグループは、CSR推進活動の目標に対する、各部門の実施担当者を集めたCSR勉強会を2012年度より実施しています。

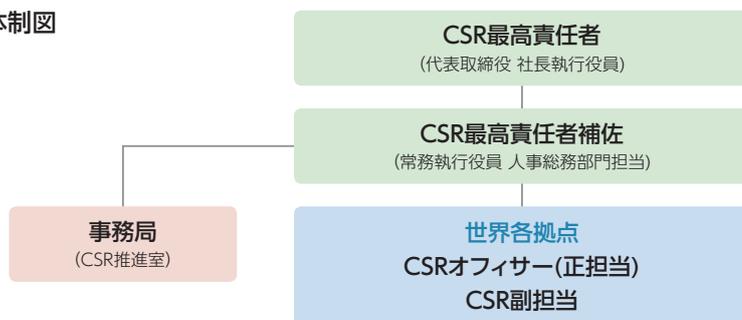
2017年度は年2回発行される社内報においてもCSRの啓発をしたほか、ミツミ電機国内拠点ではCSRオフィサー（正担当）を通して、CSRの社内浸透活動を実施しています。

## 今後の課題・目標

グローバルに事業を展開するミネベアミツミグループとして、国際的な基準にのっとったCSRの推進を目指し、海外拠点を含めたグループ全体でのCSR戦略の策定やマネジメント推進、CSRの啓発・浸透活動を進めていきます。

また、社内におけるCSRの理解促進とCSRマネジメントの強化を進めていきます。

### ▶ CSR推進体制図



# コンプライアンス

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、コンプライアンスの実践がCSR推進において欠くことのできない要素であるという認識の下、当社グループの役員、従業員が適切な行動を選択する際の規範となる「ミネベアミツミグループ行動規範」「ミネベアミツミグループ役員・従業員行動指針」を定め、公正かつ適正で、透明度の高い経営に努めています。



「ミネベアミツミグループ行動規範」および「ミネベアミツミグループ役員・従業員行動指針」の詳細は、こちらをご参照ください。

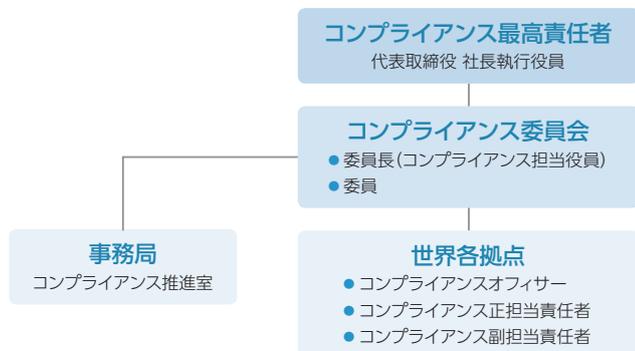
<http://www.minebeamitsumi.com/corp/company/aboutus/Conduct/declaration/index.html>

## コンプライアンス推進体制

ミネベアミツミグループでは、社長執行役員をコンプライアンスの最高責任者とし、直属の組織であるコンプライアンス委員会を年2回開催し、行動規範の運用、行動規範に対する重大な違反事例発生時の緊急対策などについて迅速に意思決定を行っています。また、コンプライアンス委員会の事務局をコンプライアンス推進室が担当し、コンプライアンス推進のための諸施策を実施しています。2017年度は法令の最新状況なども踏まえた対応や、グループでの体制強化について検討しました。

また、各拠点にコンプライアンスオフィサーを設置し、グループでのマネジメントの強化を図っています。2016年度にコンプライアンス委員会を設置したタイにおいては、課題の収集と対応を始めています。

### ▶ コンプライアンス体制図



## コンプライアンス意識調査

ミネベアミツミでは、当社グループ従業員のコンプライアンスに対する認識を確認するため、コンプライアンス意識調査を隔年で実施しています。

2017年10月から11月にかけて実施した意識調査の結果、コンプライアンスへの意識や関心に問題がないことを確認しています。また、調査結果を受け各部門へフィードバックをするとともに、課題となった相談窓口の活用方法について広く周知しています。

## コンプライアンス教育

ミネベアミツミグループでは、従業員のコンプライアンスへの理解を深めるため、階層別研修時のコンプライアンス教育を実施しており、2017年度は159名が受講しました。さらに、独占禁止法(競争法)遵守に関する定期的な研修として、国内外の従業員541名に対し、講義を実施しました。

海外においては最大の生産拠点であるタイで日本人駐在員を対象としたコンプライアンス研修を実施しました。178名の従業員が受講しています。

## 内部通報制度

ミネベアミツミグループでは、従業員一人ひとりが自らの行動や意思決定がミネベアミツミグループ行動規範に違反するかどうか迷った場合、または本行動規範に違反する疑いのある行為を発見した場合に利用できる相談窓口を社内と社外にそれぞれ設置しています。受け付けたすべての通報については、事実確認の上、適切に対応しています。

## 今後のコンプライアンス推進について

従業員一人ひとりがコンプライアンスの意識を持って、事業活動に取り組む企業風土を定着させるために、従業員の意識と知識の充実をより一層深めていく必要があると考えています。今後も教育研修の充実や相談窓口の周知徹底とともに、海外を含めたグループ全体でのコンプライアンス推進体制を強化するために、各国の連携強化を進めていきます。



## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、リスクが顕在化した場合、その対応によっては企業経営の根幹に影響を及ぼす恐れがあるとして、リスク管理は極めて重要な施策であると考えています。リスク管理体制や、事前の予防対策、緊急事態発生時の対応などについて定めた「ミネベアミツミグループリスク管理基本規程」を制定し、想定されるさまざまなリスクに備えています。

## リスク管理体制

ミネベアミツミグループでは、社長執行役員をリスク管理の最高責任者とし、「リスク管理委員会」にてリスク管理における重要な意思決定を行っています。予防的な取り組みとして、事前に具体的なリスクを想定、分類し、継続的に監視しています。万が一リスク事案が発生した場合には、「リスク管理基本規程」に定めた緊急事態の対応区分に応じて緊急対策本部や現地対策本部を設置し、事態への迅速かつ的確な対応を行います。また、リスク事案の内容により、当該事案の担当部署として主管部が任命され、当該事案についてのリスク予防対策の立案や実施を行う体制を整えています。

## 情報セキュリティ

### 情報セキュリティ体制

ミネベアミツミグループでは、情報資産を守ることは信頼関係を築く上での責務と考え、情報セキュリティに関する基本方針を定め、その徹底に努めています。

また、情報セキュリティ委員会を設け、各国ごとに推進体制を編成しています。

### 情報セキュリティ教育

ミネベアミツミグループでは、従業員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、情報セキュリティ教育を実施しています。年1回の情報セキュリティに関する説明会の実施、新入社員や中途採用社員に対する入社時の教育のほか、個別指導を実施しています。2017年度は1年を通じて、情報セキュリティに関する説明会を実施し、派遣社員、協力会社従業員を含む13,565名の従業員が参加しました。

今後も教育を通じて、情報セキュリティに関する禁止事項および遵守事項の確認や、セキュリティ事故につながりやすい注意点などを共有し、従業員の意識向上に役立てていきます。

### 個人情報保護の取り組み

ミネベアミツミグループでは、保有する個人情報について「個人情報保護方針」にのっとり適切に管理するほか、その利用目的を明確にし、利用目的の範囲内での取り扱いを徹底しています。

## BCPの取り組み

ミネベアミツミグループでは、大規模災害、インフルエンザ、テロなどの緊急事態発生時に、従業員やその家族の安全を確保するとともに、世界トップシェアの製品を持つ部品メーカーとして、お客様への供給責任を果たすことが社会的責任であると考え、国内外の主要拠点においてBCP(事業継続計画)を策定し運用を開始しています。

BCPは、拠点ごとに想定されるリスクシナリオを分析し、そのリスクレベルに応じて決定しています。具体的な対策として、緊急事態対応マニュアルの整備、工場の耐震補強、食料・飲料水の備蓄、自衛消防隊の整備、避難訓練、安否確認システムの訓練などを実施しており、軽井沢工場では地震を想定したBCPの訓練を年に3回実施しています。

また、2017年度はタイのロップリ工場においてBCPの基本計画の策定を完了しました。

さらにタイの複数の部門では、事業継続マネジメントシステムの国際規格であるISO22301を取得しており、BCP訓練計画を策定し、洪水を想定した訓練を実施するとともに、PDCAのサイクルを回して、継続的な活動と改善を行っています。

## 今後の課題・目標

引き続き、世界の主要拠点でさまざまなリスクに対して対応できるリスク管理体制の確立、定着を目指して取り組みを進めていきます。

# お客様とのかかわり

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、社是である「五つの心得」に基づいた「ミネベアミツミグループ品質方針」を掲げ、開発・製造・販売する製品の品質に万全を期し、世界のお客様の信頼に応えるとともに、限りある資源を無駄なく効率的に使用することによって、国際社会の発展に貢献できる「総合精密部品メーカー」となることを目指しています。

そのために品質マネジメントシステムを構築、実施し、その有効性を常に確認するとともに、継続的な改善に努めています。

## 品質マネジメント

### 品質マネジメント体制

ミネベアミツミグループは、グループ全体を対象とする「グループ品質マネジメント規程」を制定し、製品、サービスの安全性確保と事故の未然防止に取り組んでいます。2017年度は、経営統合における組織体系、業務内容の変更を受け、グループ品質マネジメント規程と付属する「グループ製品安全管理規定」「グループ製品含有化学物質管理規定」「重大品質問題処理規定」「グループ紛争鉱物管理規定」「品質保証協定書(標準版)」などを改訂し、英語・中国語版もつくりグループ全体で共有しました。

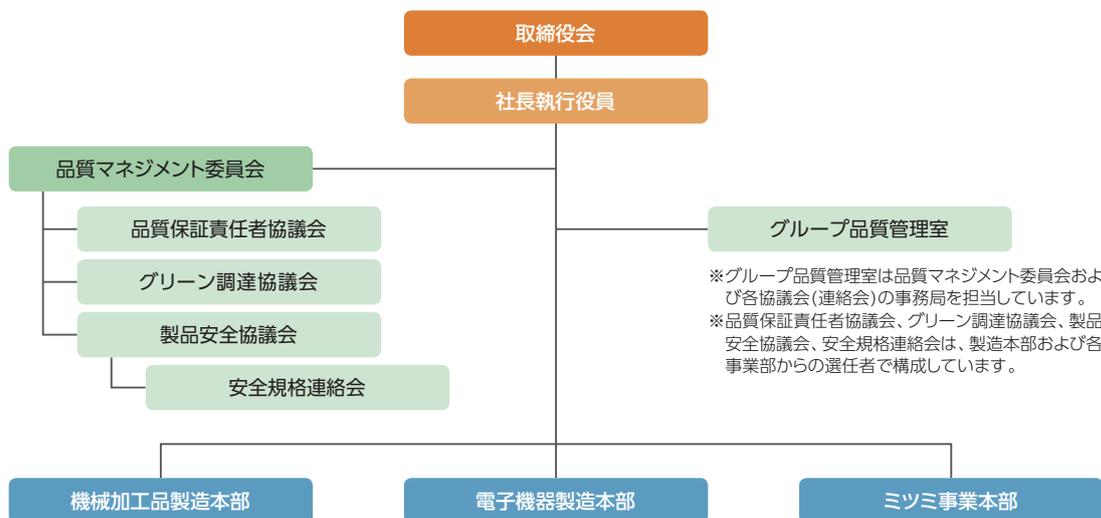
品質マネジメント体制は、最高責任者を社長執行役員とし、その諮問機関として「品質マネジメント委員会」を設置しています。その下位組織として各事業部を代表する品質保証実務責任者による「品質保証責任者協議会」にて、定期的に個別の品質課題の情報共有や、同様の問題について再発防止に取り組んでいます。また、「グループ品質管理室」が品質マネジメント委員会および品質保証責任者協議会の事務局として、各事業部に対し品質マネジメントの支援・指導などを行っています。さらに、「安全規格連絡会」では、電気用品安全法(日本)への対応や、世界各地の安全規格情報の共有・展開を行い、対応を強化しています。

2017年度は、今後は単純な部品から、複合化アセンブリ化された最終製品に近い部品もしくは最終製品自体の出荷が増えていくことを想定し「製品安全協議会」を設置し、各事業部からメンバーを選出し、情報交換、勉強会を実施しました。

### リスクアセスメント

ミネベアミツミグループの製品が使われる最終製品の中でも、万が一問題が発生した際に、社会に与える影響が大きい製品として、医療、車載、航空の3分野については社内標準にのっとり、リスクアセスメントを実施しています。このアセスメントは、グループ品質管理室と各事業部が協働で実施し、設計・製造でのリスクがある場合には、そのリスクの低減を推進しています。

### ▶ 品質マネジメント体制



※2018年4月1日現在



## 品質向上の取り組み

### お取引先様向け品質保証協定書の整備

ミネベアミツミグループでは、サプライチェーン全体でお客様からの品質要求に応えるため、お取引先様に対しては、取引基本契約のほか、品質保証協定書の締結やサプライヤーマニュアルの提示により、お取引先様の製品やサービスが当社グループの品質要求に確実に適合するようご協力いただいています。

### 品質マネジメントシステム認証の取得推進

ミネベアミツミグループでは、各事業部において必要な品質マネジメントシステム(QMS)規格の認証を取得しています。さらに今後の新製品に必要な規格についても、順次認証取得を進めています。また、グループ品質管理室で内部監査員養成研修を開催し、内部監査員を継続的に養成、力量の維持を行っています。

2017年度は、ISO9001:2015やIATF16949:2016への移行に向けて各事業部にて継続して取り組んでいます。

### QC検定試験への対応

ミネベアミツミグループでは、従業員個々の品質評価・管理能力、改善能力の向上が、ひいては当社グループの製品品質の向上につながるの考えから、2008年9月より一般財団法人日本規格協会および一般財団法人日本科学技術連盟が主催し、一般社団法人日本品質管理学会の認定を受けている品質管理検定(QC検定)の認定取得を推進しています。また、受検費用負担のほか、全従業員が共有する、品質管理知識向上のためのデータベースより教材を取得・学習できるようにし、事前講習会も年2回実施しています。

2017年度も多くの認定取得者を出しており、グループ累計では、約750名になりました。

### 銘番ラベルとバーコードの統一化

ミネベアミツミグループでは、製品の誤配送防止と確認作業の効率化のため、銘番ラベルの統一バーコードラベル化による物流管理を2013年度より開始しています。2017年度は、旧ミネベア全製品での統一を完了しました。引き続きミツミ電機製品に展開するため対応を進めています。

### 物流品質向上のための見える化

ミネベアミツミグループでは、物流品質を向上するために、物流の見える化を推進しています。納期情報や物流・在庫情報、入出庫情報を整理・分析し、保管拠点や物流方法を最適化しています。

### 製品に関する情報開示

ミネベアミツミグループが提供する製品は、消費者が手にする最終製品の中に組み込まれている部品がほとんどです。そのため、安全性情報はお客様のご要求に基づき提供しています。また、製品含有化学物質管理では、お客様のご要求に基づき、お取引先様より入手した製品含有化学物質情報を基に伝達しています。

### お客様とのコミュニケーション

#### お客様満足度調査

ミネベアミツミグループでは、各事業部が主体となってお客様満足度調査を実施しています。その評価結果は各事業部の営業部門および開発部門にフィードバックされます。お客様から一定の基準を下回る評価をいただいた場合には、部門横断での改善を検討、実施しています。

### 品質問題への対応

ミネベアミツミグループの製品、サービスにおいて、万が一重大な品質問題が発生した場合には、「グループ品質マネジメント規程」にのっとり、必要な対応を決定しています。

### 今後の課題・目標

今後もさらなる品質向上に向けて取り組みを強化します。具体的には引き続き新しい法令や規格への対応のほか、グループ・サプライチェーン全体での品質マネジメントシステムの強化を進めていきます。

また、物流面については、バーコードラベルや梱包箱の統一化とそれによる自動化を進め、さらなる物流品質の向上に取り組んでいきます。

# 従業員とのかかわり

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、創業以来、従業員を最も重要な財産と位置付け、「五つの心得」に「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」と定めています。当社グループのすべての従業員が健康で、安全に働くことができ、一人ひとりがその能力を十分に発揮できるよう、職場環境の整備、向上に努めています。

### ▶ 従業員数(グループ) (2018年3月時点)

	従業員	日本人海外駐在員	合計
日本	6,202名	—	6,202名
北米	2,624名	42名	2,666名
欧州	2,295名	35名	2,330名
アジア圏	66,598名	555名	67,153名
合計	77,719名	632名	78,351名

### ▶ 勤続状況(単体) (2017年度)

平均勤続年数	平均年齢	退職者	離職率
17年6カ月	43歳11カ月	134名	3.41%

### ▶ 時間外労働データ(単体) (2017年4月～2018年3月の平均値)

一人当たりの平均時間外労働時間	6.94時間/月
一人当たりの平均時間外労働手当	15,413円/月

## 多様な人材の活用

グローバルに事業展開するミネベアミツミグループでは、人材は多様化していますが、更なる人材力の強化を進めています。また、性別や年齢、国籍、障がいの有無などにかかわらず、多様な人材が能力を最大限に発揮できる環境づくりに努めています。

### 女性活躍の推進

ミネベアミツミグループは、多様な人材が活躍することが、新たな価値観や競争力を生み、かつ、持続的に発展する会社となることを重要な経営戦略の一つと位置付けています。

特に女性活躍推進のために、女性が安心して働ける環境を整備するなどの取り組みを進めており、管理職候補となる女性従業員を増やし、かつ管理職として活躍できる雇用環境の整備を行うための行動計画を2016年3月に策定しました。行動計画では2021年までに女性管理職の割合を

2016年比で2倍にすることを定めています(ミネベアミツミ2018年3月実績:1.45%)。

また、2017年度は引き続きリーダーシップスキルを中心に管理職に必要な能力向上を目的として、「リーダーシップの基本と実践研修」の実施と女性従業員の交流会を開催しました。



[行動計画]の詳細は、こちらをご参照ください。

[http://www.minebeamitsumi.com/corp/environment/sociality/employees/2018/minebeamitumi\\_action\\_plan.pdf](http://www.minebeamitsumi.com/corp/environment/sociality/employees/2018/minebeamitumi_action_plan.pdf)

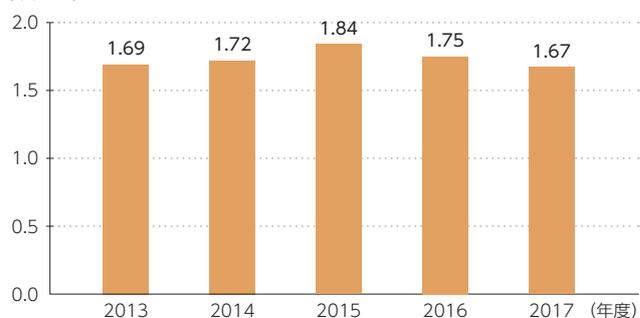
### 障がい者雇用の取り組み

ミネベアミツミでは、障がい者の雇用を積極的に進めています。2017年6月時点での雇用率は1.67%となりました。今後、法定雇用率(2.2%)を目指してさらに取り組みを強化していきます。

また、障がいの有無にかかわらずすべての従業員がやりがいを持って働けるよう、職場によっては専門知識のある従業員が指導するなど、職場環境にも配慮した取り組みに努めています。

### ▶ 障がい者雇用率の推移(単体)

(単位:%)



※2013年～2016年度は経営統合前のミネベア(単体)での集計結果です。

### 65歳定年制の導入

ミネベアミツミグループでは、全社員が定年後65歳まで働くことができる再雇用制度を導入し、積極的にシニア社員の戦力化を図ってきましたが、2019年4月より「65歳定年制」を導入し、ミネベアミツミのほか、国内子会社の定年を65歳に統一しました。これからも従業員が安定した、活躍できる環境づくりを整備していきます。



## 人材育成

ミネベアミツミグループでは、企業規模の拡大と加速するグローバル化の中で、「情熱・好奇心・自ら考え行動する主体性」「ものづくりへのこだわり」「グローバル志向」を持ち、チャレンジする人材の育成に取り組んでいます。

### チャレンジする人材の育成

ミネベアミツミグループは積極的に海外展開を進めており、海外駐在期間は原則3年から5年というガイドラインに従い、多くの従業員に対しグローバルに活躍する機会を提供しています。

海外拠点への赴任者や長期出張者に対する海外赴任前研修を2017年度では計21回実施し、延べ99名が参加しました。赴任後も、現地にてコミュニケーション力の強化を目的に、赴任先の言語や英語学習の支援制度を設けています。

また、全社規模の取り組みとして、隔年でTOEIC試験を開催し、従業員の英語力の把握と向上に向けた各種施策を実施しています。さらに従業員が自ら手を挙げて希望する部署に異動できる公募ローテーション制度を2015年より導入し、これまで計15名を超える従業員が制度を利用して、新たな職務に取り組んでいます。

海外のローカルスタッフに対しては、経営の現地化を目指し各法人でも研修を実施しているほか、研修生として日本の工場・本社部門で受け入れ、日本語の習得、日本文化の理解だけでなく、当社コア技術、ものづくりのノウハウやマネジメントの教育を行っています。

### 日本で研修をしています

VOICE



NMB-Minebea Thai Ltd.  
Accounting Div.  
**Chonticha Intagosum**

わたしは現在、東京本部の経理部で研修しています。1年間の日本での研修が決まった時、とてもうれしく思いました。海外での仕事は初めてですが、職場の方はとても親切にサポートしてくれています。

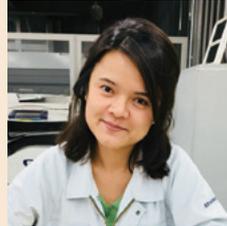
タイでは、データ入力が必要な業務でしたが、日本ではそのデータのチェックを任されています。この経験により、業務の全体像を理解することができ

ました。タイに帰国しても日本での経験が必ず役立つと感じています。

仕事以外でも日本の文化や習慣などに慣れることも大変です。日本語でのコミュニケーションももっと練習が必要だと感じています。しかし、この研修はわたしにとって非常に貴重な体験です。こうした機会を与えてくれたこと、多くの友人に恵まれたことに感謝しています。

### 日本に駐在しています

VOICE



浜松回転機器資材課  
**Hataikarn Kanram**

タイのロップリ工場から浜松工場に来て、2014年10月から回転機器資材課に勤務しています。タイの資材部や、お取引先様と浜松の事業部とをつなげることがわたしの主な仕事です。日本への駐在の前に、研修で一度日本に来たことがあります。その時は日本語も分からず心細く感じましたが、駐在の打診をいただいた際は、新たなことにチャレンジする気持ちで臨みました。

日本で働くことで、日本語だけでなく、日本人の性格や考え方、情報を集める力が身につき、業務に役立っています。タイでは試作段階の細かい情報や経緯が分かりませんでしたが、日本には技術のメンバーがいるので、彼らと細かく調整をすることができています。こうした経験を生かして、今後もタイと日本をつなぐ仕事をしたいです。

### 次世代リーダーの育成

ミネベアミツミグループの持続的な成長の牽引役として期待する次世代のリーダー層を中長期的な視点で育成することを目的に研修や強化プログラムを実施しています。

その一環として、米国コロンビア大学ビジネススクールに、客員研究員として従業員を派遣し、多様なバックグラウンドの学生や研究員との交流を通じ、幅広い知見の習得と、人脈構築、語学力強化、リーダーシップを磨く機会を提供しています。

### 公正な評価

ミネベアミツミグループでは、従業員一人ひとりの能力と実績を、公平性、公正性に最大限配慮した上で適正に評価し、処遇や報酬に反映させています。2017年度は人事考課規定の基準と、昇格基準の見直しを行っており、新制度の説明会を実施し、制度の透明性向上に取り組んでいます。

今後も、意欲ある従業員が能力を十分発揮できる、そして働きがいを感じられる職場環境となるよう、労働環境や雇用構造などの変化にも柔軟に対応できる人事施策を実施していきます。

### 人権の尊重

ミネベアミツミグループでは、人種、年齢、性別、国籍、宗教などによる不当な差別を禁止しています。従業員に対しては、新入社員研修において「ミネベアミツミグループ役員・従業員行動指針」を用いた研修を実施しているほか、海外へ

赴任となる従業員に行う赴任前研修や、各階層別研修の中でハラスメント防止に関する教育を実施しています。さらに、内部通報制度ならびに相談窓口を設けることで、人権侵害防止に取り組んでいます。

また、最大の拠点であるタイでは、労働方針において強制労働、児童労働などの人権侵害を禁止するとともに、罰則を設けています。また、タイの労働保護基準であるTLS 8001-2010の認証を取得しています。

### 働きやすい職場環境への取り組み

#### 労使関係

ミネベアミツミグループでは、「ミネベアミツミグループ行動規範」に示すように、結社の自由を認め、労働環境や労働条件といった課題について、定期的に労使懇談会を行うなど労働組合や従業員代表などと積極的にコミュニケーションを図り、良好な労使関係を築いています。

#### 多様な働き方の推進

ミネベアミツミグループは従業員のワークライフバランスへの配慮が、従業員のやりがいや充実感につながる、重要な課題であると考えています。そのため、出産・育児、介護などのさまざまなライフイベントに柔軟に対応できる制度を設けています。

2017年度には、育児短時間勤務の制度を見直し、子どもが小学校3年修了まで利用できるように変更しました。今後も、従業員が働き方を柔軟に選択できるよう、制度の充実に努めます。

#### ▶ 主な福利厚生制度と利用者数(国内グループ) (2017年度)

制度名	内容	延べ利用者数
育児休業制度	育児休業および育児短時間勤務の制度	114名
配偶者出産休暇制度	配偶者の出産時に取得可能な休暇制度(延べ2日まで)	49名
介護休業制度	介護休業および介護短時間勤務の制度	5名
入社30年以上永年勤続者の旅行招待制度	勤続30年の従業員と家族への旅行券贈呈	136名

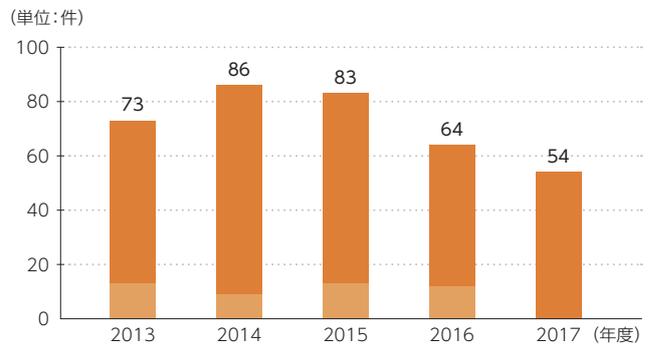
### 安全衛生管理

ミネベアミツミグループでは、製品・サービスの質、生産の一貫性、および従業員のモラル向上は、安全で衛生的な職場環境において実現すると考えています。

各工場では、安全作業や衛生などの各部会からなる安全衛生委員会を定期的に開催し、各部会の目標に対する活動結果を共有しています。また、当社グループの量産拠点であるタイ、中国、シンガポール、フィリピン、マレーシアの主要工場ではOHSAS18001の認証を取得しています。

万が一、火災、労災、交通事故などが発生した場合には、安全管理責任者を中心に原因の把握や適切な対応が取られるとともに、それらの情報を全世界の事業所と共有し、類似事故の再発防止に役立てています。

#### ▶ 労働災害発生件数の推移(グループ)



■ミネベアミツミグループ ■ミツミ電機

※2013～2016年度は、経営統合前のミネベアグループとミツミ電機での集計結果です。

※ミツミ電機は国内事業所のみ。

#### 健康管理の促進

ミネベアミツミグループでは、定期的に健康診断や健康相談の実施、時間外労働抑制に対する通知を行うほか、産業医が定期的に巡視するなど、各国の関連法規や各事業所の実情に合わせて、従業員の健康維持、向上に取り組んでいます。

特に、近年社会的関心が高まっている心の健康管理については、2016年度よりストレスチェックを導入しています。また、健康管理室などで産業医や産業カウンセラーに相談できる体制を整備するとともに、各工場の保健師を集め、3カ月に1回定期的なミーティングを実施しています。

#### 今後の課題・目標

今後は引き続き、ワークライフバランスの向上や健康管理の強化など従業員がやりがいを持ち、さらに生き生きと仕事に取り組む環境を整備するための施策を実施していきます。

また、将来にわたるグローバルな会社の成長を可能とするため、世界に通用する人材の育成とノウハウの継承、多様性を生かせる環境整備などの人事施策の実施に継続して力を入れて取り組んでいきます。

# お取引先様とのかかわり

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループの事業は多くのお取引先様との関係に支えられています。当社グループでは「資材調達基本方針」を定め、これに基づき健全なパートナーシップを築いています。また、サプライチェーンを通じたCSRを推進するため、お取引先様には「ミネベアミツミグループCSR調達ガイドライン※」を配布し、理解と協力をお願いしています。



「資材調達基本方針」および「ミネベアミツミグループCSR調達ガイドライン」の詳細は、ミネベアミツミグループウェブサイトをご参照ください。

<http://www.minebeamitsumi.com/corp/company/procurements/index.html>

## CSR調達

ミネベアミツミグループでは、グローバルに事業を展開する上で、サプライチェーン全体でのCSRの推進が重要と考え、2012年3月に、「ミネベアミツミグループ行動規範」を基にした「ミネベアミツミグループCSR調達ガイドライン」を策定し、CSR調達の枠組み構築に取り組んでいます。

2017年度は、ミネベアとミツミ電機の経営統合に伴い、CSR調達ガイドラインを統一しました。統一したCSR調達ガイドラインを、ミツミ電機の国内外のお取引先様1,337社へ配布し、ミネベアミツミの考えるCSRのご理解と取り組みを依頼しています。

## お取引先様の選定

ミネベアミツミグループでは、新規に取引を始める際に、お取引先様に対して当社グループの資材調達への考えに賛同いただくとともに、資材調達基本方針を遵守するために新規取引業者の認定基準にのっとった確認を行っています。具体的には、継続的な取引が可能であること、当社グループの製品含有化学物質に関する要領および基準などを遵守できること、「ミネベアミツミグループCSR調達ガイドライン」に賛同できることなどの確認を行い、必要に応じて工場の監査も実施しています。

## 下請法への対応

ミネベアミツミグループでは、お取引先様と対等、公正な取引関係を築くことを目指し、2017年度、国内の事業所を対象に下請法に関する自主監査を実施しました。監査により状況の確認を行うとともに改善に努めています。

また、下請法の理解推進を目的に各事業所で下請法に関

する研修を実施しました。2017年度は、ミツミ電機を含め565名の関係者が受講しました。



ミツミ電機での下請法研修の様子

## グリーン調達

ミネベアミツミグループでは、化学物質に関する各国の法令・規則への対応、お客様の満足や環境負荷物質の削減を目的として、製品含有化学物質に関する要領および基準書を作成・改訂し、お取引先様に対して有害物質を含まない製品(原材料、部品、部材および包装、梱包材料)の提供と、証明書や分析結果報告書などの資料の提出をお願いしています。

2017年度は、ミツミ電機との経営統合に伴い、製品含有化学物質の管理基準をミネベアミツミグループグリーン調達管理要領とその附属書へ一本化しました。施行に際し皆様に変更をお知らせし協力をお願いしています。

## 「紛争鉱物」への対応

2012年8月に米国証券取引委員会にて採択された「金融規制改革法」の開示規則を受け、同法律にて規定されたコンゴ民主共和国および隣接諸国で産出された「紛争鉱物」に対するミネベアミツミグループの考えをまとめ、2012年10月「ミネベアミツミグループ紛争鉱物対応ポリシー※」を制定しました。さらに、「ミネベアミツミグループCSR調達ガイドライン」についても「紛争鉱物対応」について追加し、お取引先様に対して対応を要請しています。

また、お客様からの調査依頼については、引き続き調査用データベースを用いた回答を実施しています。

※2017年度の経営統合に伴い、名前に「ミネベアミツミグループ」を記載して改定しています。

## 今後の課題・目標

サプライチェーンを通じたCSRの推進に向けて、グローバルなCSR調達の枠組み構築を進めています。

2018年度はミツミ電機の国内の主要お取引先様に「ミネベアミツミグループCSR調達推進自己チェックシート」を配布・回収し、現状を確認していきます。

# 地域社会・国際社会とのかかわり

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループはグローバルに事業を展開する企業として、地域社会との十分なコミュニケーションにより、健全なパートナーシップを構築していくことが重要であると考えています。地域に根差した企業であるために、「五つの心得」を基本に、地域のニーズに合った社会貢献活動を実施しています。

## 国際社会への貢献

### 欧州での取り組み

#### 地域の医療施設への寄付

イギリスのリンカーン工場は、2017年6月に寄付を目的とした「It's A Knockout」というイベントに参加しました。

これは障害物競走で、従業員のチームが出場し12チーム中1位をいただいています。集まった寄付金は、終末ケアを行う福祉医療施設に寄付されました。

### 中国での取り組み

#### 地域発展に向けた支援活動

中国の各工場では、近隣地域の福祉施設のお年寄りや貧困家庭の子どもたちに支援物資の寄贈や寄付をしています。さらに従業員が出向いてお年寄りや子どもたちを含む地域の方々と親交を深めています。

また、台風・洪水や地震などの自然災害を受けた地域に対して、復興を早めるために従業員から寄付を募ったり、あるいは従業員が清掃活動をするなど、中国の地域発展のためにさまざまな支援活動を行っています。



台風後の清掃活動の様子

### フィリピンでの取り組み

#### 地域での医療支援

フィリピンのセブミツミ工場では、さまざまな地域で医療支援活動を行っています。

2017年10月には、従業員との協働で無料の歯科や眼科の検診、診療を行い、さらに医薬品も提供しました。当日は病院に通いづらい山地の皆様が263名来場しています。

### タイでの取り組み

#### 生計向上への支援

NMBミネベアタイは、近隣のコミュニティセンターと協働で、地域住民の生計向上支援を行っています。2017年度は、家庭でできる生計向上の一つとして、造花などの工芸品の制作と販売についての講習会を2日間にわたり行い、多くの地域住民に参加いただきました。



コミュニティの皆様とミネベアミツミメンバー

## VOICE

### ミネベアミツミの支援を受けて



Baanongtam Community Center Leader  
Mrs. Bang-On

この活動のおかげで多くの地域住民の生計は改善しており、非常に感謝しています。家事の空き時間を利用して造花を作り家計の足しにできるので、好評です。ミネベアミツミにはさらなる発展のため、これからもご協力いただきたいと思います。

## 地域社会への貢献

### 震災復興支援

東日本大震災に対する育英基金として、「公益信託ミネベアミツミ東日本大震災孤児育英基金」を設立し、小学生から中学生までの孤児に対して、毎年10万円、中学卒業時に30万円、返済義務のない育成支援金を支給しています。毎年3月には、支援している中学3年生の子どもたちを東京に招いて、従業員サポーターとともに卒業のお祝いを行っています。



## 従業員サポーターとして参加して

VOICE

ミネベアミツミ株式会社 総務部  
三浦 里絵

企業だからこそできる、この大きな取り組みを実践していることにとても感銘を受け、自分も一人の社員として貢献したい気持ちになりました。そして、2018年3月23日、24日に行われた子どもたちの卒業懇親会に従業員サポーターとして参加させていただきました。

つらい経験を思い出させてしまわないよう気を付けていましたが、子どもたちが出会った友達同士で楽しく過ごし、サポーターにも笑顔をを見せてくれたことで安心しました。

子どもたちは、やってみたい部活動や、将来のため勉強に励んでいることなどをお話してくれて、これからの高校生活を楽しみにしている姿が何よりもうれしかったです。今後も、未来を担う子どもたちを支えていくような社会貢献を続けていきます。

## 小学校からの職場訪問受け入れ

藤沢工場では、近隣の藤沢市立新林小学校3年生9名の工場見学を受け入れました。

「学区探検」という授業への協力です。子どもたちが学区内の会社や公共施設を調べ、そこを自分たちで訪問して働いている人から話を聞き、地域への理解を深めることが目的です。

子どもたちが初めて見るものもたくさんあり熱心に見学をして、小学生らしい質問もたくさん受けました。



児童へ説明する従業員の様子

## 相模川の美化活動

ミツミ電機厚木事業所は近隣地域の環境美化活動に協力しています。

相模川の美しい環境を守ろうという「県央相模川サミット六市町村合同クリーンキャンペーン」に毎年参加しています。2017年5月に行われたキャンペーンには31名の従業員が参加しました。朝7時30分という早い時間から空き缶やペットボトル、ガラスなどのごみを拾い集めました。清掃後は、相模川にアユの稚魚5,000匹を放流しました。



清掃活動の様子

## 認定NPO法人あさまハイランドスポーツクラブへの支援

軽井沢工場では、アマチュアスポーツ振興として、認定NPO法人あさまハイランドスポーツクラブへの寄付を通じて、カーリングを支援しています。寄付金は大会の開催や、ジュニアチーム、車いすチームの支援に利用されています。

またアジアパシフィックカーリングツアーのこの会場での試合を、ミネベアミツミカップとして毎年後援しています。



カーリング大会(ミネベアミツミカップ)の様子

## 地域の方々との定期懇談会

軽井沢工場と米子工場では、地域の方との対話を継続するため、定期的に懇談会を実施しています。

軽井沢工場では、年2回、地域の方と話し合いの機会を持っています。2017年は5、11月にそれぞれ第9、10回懇談会を開催しました。懇談会では、防災計画および災害対応訓練、地産地消関係、新製品への期待等、幅広い内容について意見を交わしました。



軽井沢工場での懇談会の様子

## 今後の課題・目標

今後も国内外の地域貢献活動に積極的にかかわり、地域社会との信頼関係を深め、共に継続的に発展していける企業を目指していきます。

# 株主の皆様とのかかわり

## 適時開示／ディスクロージャーポリシー

ミネベアミツミは、法律・法令に沿って適時、適切な情報開示を行うとともに、ディスクロージャーポリシーを定め、積極的な情報開示に努めています。

## 株主の皆様とのコミュニケーション

### 株主総会の実施など

ミネベアミツミは、定時株主総会を毎年6月に開催しています。また、年2回報告書を株主の皆様へ送付することにより、当社の経営状況や方針などについての理解を深めていただけるよう努めています。

### 機関投資家とのコミュニケーション

機関投資家、証券アナリストの方を対象とした決算説明会・決算説明電話会議を開催しています。説明資料については、ウェブサイト上でも同時に、またはできるだけ早く和英で公開しています。

海外でも、米州、欧州、アジア地区でそれぞれ年1回1週間程度、投資家訪問を行っています。

また、証券会社主催の投資家向けセミナーに参加したり、個別面談を多数行うなどの活動を積極的に行い、財務・非財務どちらの情報も発信しています。

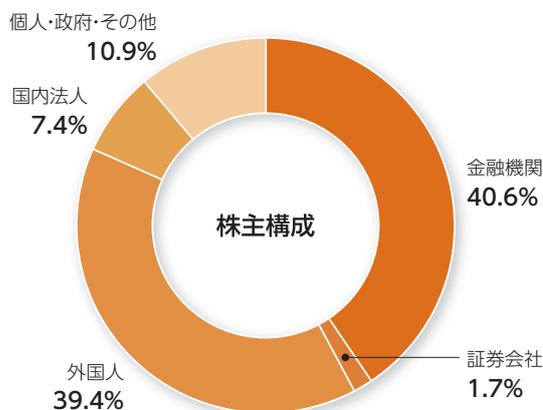
## 株主の皆様への還元

ミネベアミツミは、2009年度の現社長執行役員就任時より、「一株当たり利益の最大化を図り、企業価値の向上を目指す」、そして「ミネベアミツミ100周年のための基礎固めを行う」という2つの目標を掲げて取り組んできました。

2018年3月期は、売上高と営業利益、経常利益、純利益すべてが過去最高となりました。これは2017年1月に経営統合したミツミ事業が収益に大きく貢献したことに加え、ボールベアリング、モーター、LEDバックライトなどの主力製品が堅調に推移したことによるものです。これを受け、通期合計で26円の配当を実施しました。

また、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため自己株式の取得を行っています。これまでに、2008年11月、2010年2月および2011年5月から6月にかけてと、2017年2月から9月にかけて実施しました。

## 株主構成 (2018年3月末時点)



## IRウェブサイト

ミネベアミツミのIRウェブサイトが、大和インベスター・リレーションズ株式会社発表の「2017年インターネットIR・優良賞」と、日興アイ・アール株式会社発表の「2017年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」にて総合ランキング最優秀サイト、業種別ランキング優秀サイトを受賞しました。また、モーニングスター株式会社ゴメス・コンサルティング事業部の「Gomez IRサイト総合ランキング2017」銀賞を受賞しました。今回の受賞で、この3社の賞については10年連続の受賞となります。



## 今後の課題・目標

今後もIR活動の充実により、株主の皆様とのコミュニケーションの場を広げ、より多くの株主、投資家の皆様にミネベアミツミへの理解を深めていただけるよう取り組んでいきます。

また、近年のESGに関する関心の高まりを受け、2018年に統合報告書を発行し非財務情報を含めたコミュニケーションをより充実させていきます。

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、「ミネベアミツミグループ環境方針」の下、環境マネジメントシステムを構築し、グループ全社にて地球環境保護および人類の持続的な発展に貢献するよう努めています。

その具体的な取り組みとして、エネルギー効率の高い設備、プロセスを採用し、グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量を基準年2015年度から2020年度までに生産高原単位で15%削減する計画です。

2017年度は、基準年2015年度に対して生産高原単位で6%のCO<sub>2</sub>排出量削減を目指しましたが、残念ながら1%の削減に留まりました。経営統合によりCO<sub>2</sub>排出量が増加したことに加え、為替が生産高に与えた影響の大きさが排出量削減の取り組み効果を上回ったためです。

また、原材料、水などの資源を有効に活用するため、工場からの廃棄物、排水が最小限となるよう、取り組みを強化しています。同時に、高効率モーター、高効率照明、高効率エネルギー変換デバイス、およびビル、工場、都市住環境のスマート化に欠かすことのできない通信制御技術やセンサー、新素材の開発などにも積極的に取り組み、製品を通じた環境への貢献を進めています。

## 環境マネジメントシステム

### 環境マネジメント体制

ミネベアミツミグループでは、「ミネベアミツミグループ環境方針」を実践するために、取締役会、社長執行役員をトップとした環境マネジメント体制を構築しています。全体の推進組織として、役員を中心とした環境マネジメント委員会と実務者によるグループ環境対策委員会を設置し、環境政策について迅速に対応できる体制としています。また、各事業所に事業所環境管理総括責任者と環境管理責任者を配し、工場、事業所ごとに具体的な環境保全活動を推進しています。

### ISO14001認証

ミネベアミツミグループでは、世界中の主要拠点においてISO14001の認証取得を推進しています。新設工場や新たに当社グループに加わった工場なども、認証取得計画に基づき環境マネジメント活動を開始します。2017年1月にグループに加わったミツミ電機も国内、海外のすべての工場でISO14001認証を取得済みです。

また、2015年9月にISO14001の規格改訂が行われたことを受け、各工場、事業所は2015年版での認証への移行を2018年9月までに完了する予定です。



ISO14001の実地審査(カンボジア工場)

## 環境教育

### 基本的な考え方と2017年度の取り組み(日本)

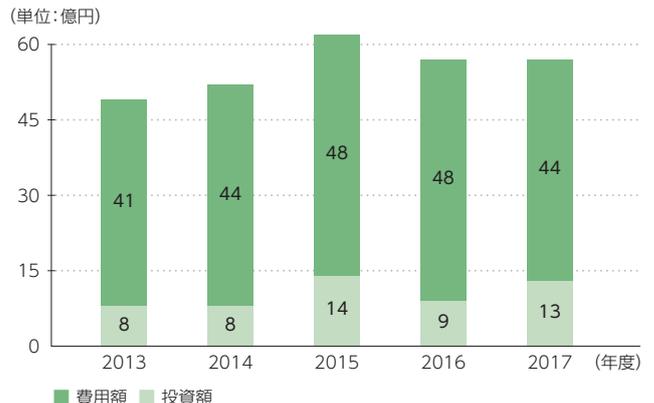
ミネベアミツミグループでは、一人ひとりの環境意識を高めるため、新入社員や中途採用者、研修生、帰国者などに対して環境マネジメント基礎教育を実施しています。

また、すべての従業員を対象にして、「ミネベアミツミグループ環境方針」や各事業所の環境目標、実施計画などの環境マネジメント教育や廃棄物の分別教育、緊急事態への対応訓練などを実施しました。

## ミネベアミツミの環境会計

ミネベアミツミグループは、環境保全対策へのコストを認識するため、環境省が発行する「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、環境会計の集計を行っています。当社グループの2017年度の環境保全コストの総額は5,694百万円で、2016年度と比較してほぼ同額でした。

### ▶ 2013年度～2017年度の環境保全コストの推移



生物多様性保全への取り組み

基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、「ミネベアミツミグループ環境方針」の「国際社会への貢献」において、当社グループの事業活動が自然界の生態系や生物多様性に影響を与える可能性を認識し、自然界の保護に努めることを表明しています。

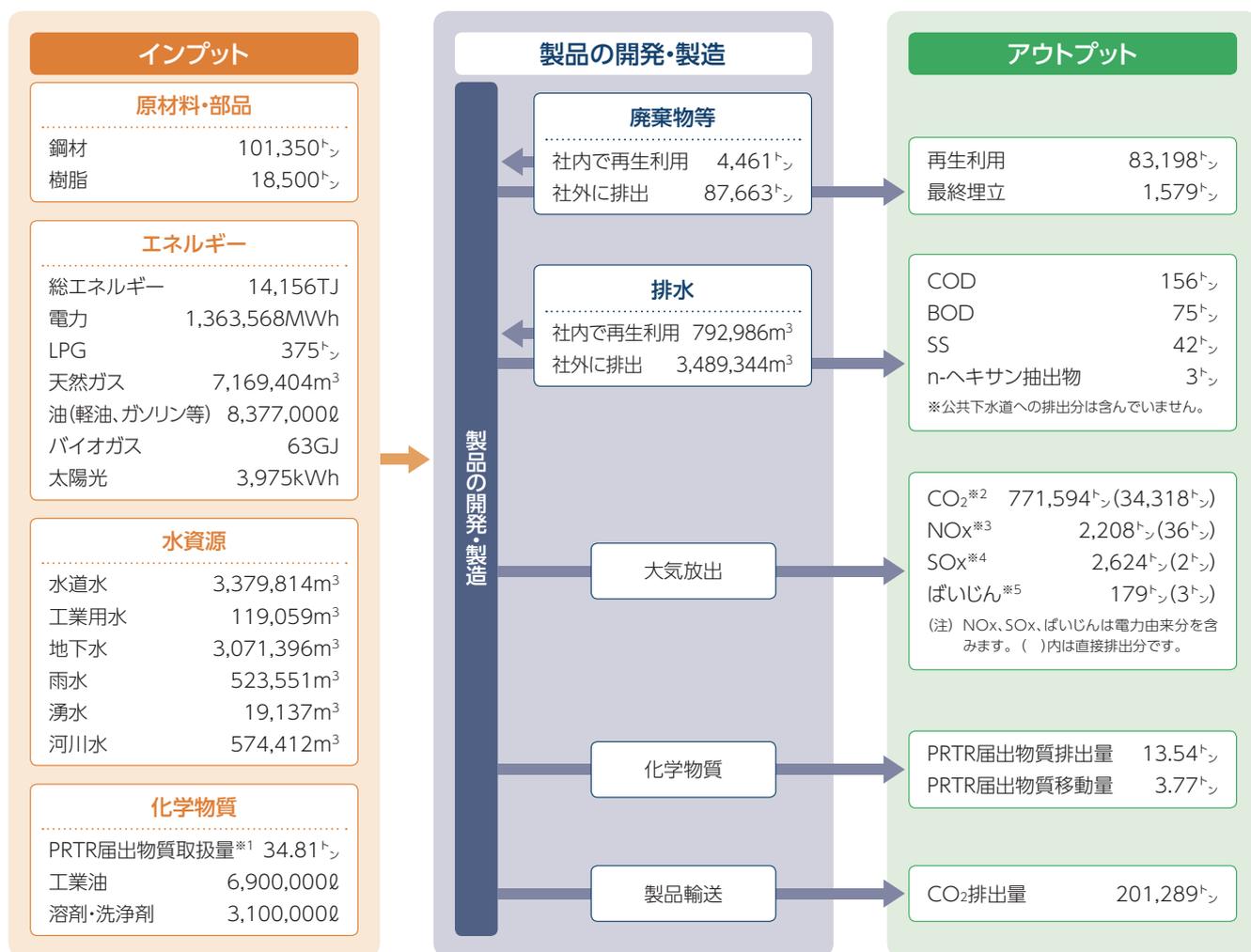
ミネベアミツミの環境負荷

ミネベアミツミグループは、世界17カ国に製造拠点を有し、主力のベアリングをはじめとする機械加工品、電子機器、回転機器など、多様な製品を生産、販売しています。環境負荷を売上高の生産地域別比率から見た場合、当社グループは日本を除くアジア地域で約8割を消費、あるいは排出しています。

2017年度は、総エネルギー量が約5%、工業油は約1%増加しましたが、溶剤・洗浄剤は約22%減少しました。

2017年度の当社グループの環境負荷は以下のとおりです。

▶ インプット・アウトプット(2017年度実績)



\*1 PRTR物質：PRTR法(化学物質排出把握管理促進法/日本国内法)により排出量・移動量を把握し、届け出ることを定められた化学物質。記載した数値は行政に届出した量。

\*2 CO<sub>2</sub>：二酸化炭素

\*3 NOx：窒素酸化物

\*4 SOx：硫黄酸化物

\*5 ばいじん：燃焼、加熱および化学反応などにより発生する排出ガス中に含まれる粒子状物質

# 地球温暖化防止の取り組み



## 基本的な考え方

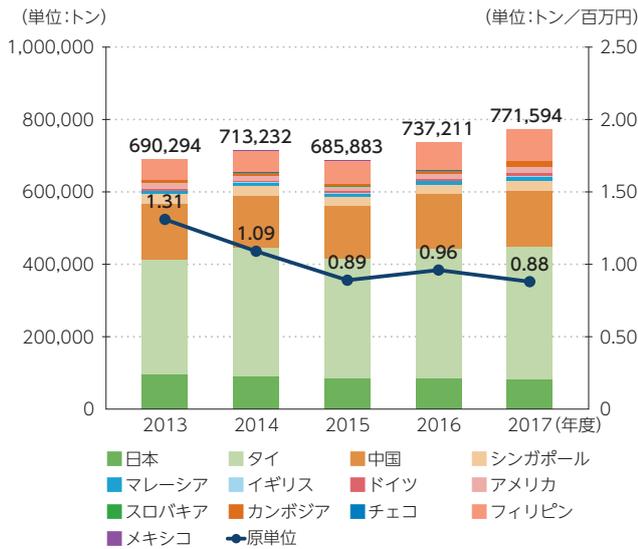
ミネベアミツミグループは、世界規模での課題となっている地球温暖化問題と、その影響によるエネルギー価格の上昇や異常気象の発生などが、事業活動の継続にも大きな影響を与えると考えています。

当社グループでは、地球温暖化防止に取り組むため、各事業所で積極的に省エネルギー対策を進めています。

## 2017年度の取り組み結果

2017年度のミネベアミツミグループ全体のCO<sub>2</sub>排出量は771,594トンで、2016年度と比較して5%増加しました。一方、生産高原単位によりCO<sub>2</sub>排出量をとらえた場合は、0.88トン/百万円で、2016年度より8%減少しました。

### ▶ CO<sub>2</sub>排出量推移(総量&原単位)



## 事業所における取り組み

### 純水 原水熱交換器増設に伴う原水ポンプの電力削減(千歳事業所)

千歳事業所では半導体生産用水として、地下水を利用しています。地下水(井戸水)から生産工程用の純水を製造していますが、井戸水の温度は年間を通して低いため、加温する必要があります。2017年度、遊休となっていた熱交換器を再利用することで、年間95万円の電力削減効果がありました。

また、今回の事例以外にも、以前から井戸水熱交換を行っており、加温のための天然ガスの使用量削減に大きく貢献しています。

## 工場の省エネルギー対策

ミネベアミツミの国内、海外工場では、省エネルギー性能に優れた高効率の空調用ターボ冷凍機やインバータ式空気圧縮機、LED照明などを積極的に導入しています。また、工場の屋根・外壁への遮熱塗料の塗布、排熱回収とCO<sub>2</sub>センサーによる外気取得制御などの対策も講じて、総合的に工場の省エネルギー性を高めています。



中国・西岑工場に導入されたターボ冷凍機

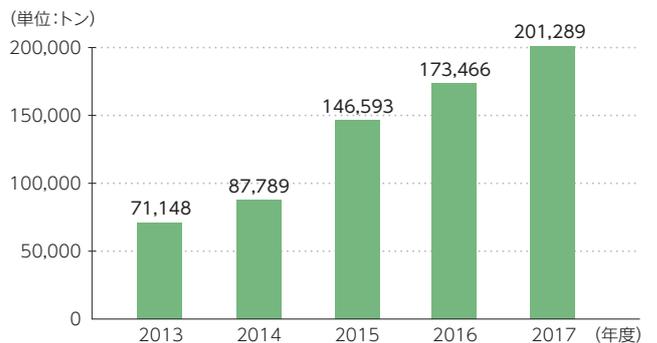
## 物流部門の取り組み

### 物流のCO<sub>2</sub>排出量

ミネベアミツミグループは自社の直接のCO<sub>2</sub>排出であるスコープ1(ガス、石油)、スコープ2(電気、蒸気、熱)のCO<sub>2</sub>排出量に加え、スコープ3(その他)となる物流(製品輸送)のCO<sub>2</sub>排出量の把握に取り組んでいます。

2017年度の当社グループの製品輸送によるCO<sub>2</sub>排出量は201,289トンで、2016年度と比較して16%増加しました。製品出荷の増加に伴う輸送量の増加や、遠方のお客様への空輸の増加が主な原因になります。

### ▶ 物流のCO<sub>2</sub>排出量



## 今後の課題・目標

ミネベアミツミグループでは、今後も引き続き地球温暖化防止に向けて取り組みを進めていきます。

2020年、2030年といった将来の長期的な展望としては、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)や各国の政策などを注視し、対策を進めていきます。

# 資源の有効活用の取り組み

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループの製品に欠かせない金属、プラスチックなどの原材料や、エネルギー源となる石油、天然ガスなどは、その埋蔵量に限りがあります。また、電子機器製品に不可欠なレアアース(希土類元素)は、産出国に限られるため、輸出制限などを受けやすくなっています。

当社グループでは、事業活動の継続のためには資源の有効活用が重要であると考え取り組んでいます。

## 2017年度の取り組み結果

2017年度にミネベアミツミグループ全体で使用された主な原材料は、鋼材:約101,350トン、樹脂:約18,500トンで、合計量は2016年度と比較して約7%増加しました。

一方、当社グループから社外に排出された後、最終処分(埋立)された廃棄物量は1,579トンでした。2016年度から比較した場合、2017年度は554トン削減しました。

また、当社グループではタイや中国の量産工場において、工場内で発生した排水を可能な限りリサイクルし、工場外に排出しない「工場排水ゼロシステム」を運用しています。

2017年度の当社グループにおける工場排水量は3,489,344m<sup>3</sup>で2016年度と比較して64,344m<sup>3</sup>の増加となりました。

## 資源の有効活用の取り組み

### 事業所における取り組み

#### (日本、タイ、マレーシア、中国ほか)

ミネベアミツミグループでは、製造時の歩留まり向上や不良品の発生削減に積極的に取り組んでいますが、電気・電子製品を作る上で、電線や鋼材の端材、製造工程時のリジェクト品の発生は避けられません。

このような電気・電子廃棄物については、高いリサイクル技術を持つ処理業者に委託し、可能な限り原材料レベルまで分解、分別し、資源リサイクルを行っています。

例えば、電線は銅線をプラスチック樹脂で被覆していますが、銅とプラスチック樹脂が一緒のままでは資源リサイクルは行えません。そこで、廃棄した電線を銅とプラスチック樹脂とが分離するまで微細に粉碎、分別し、資源リサイクルしています。



切断された電線



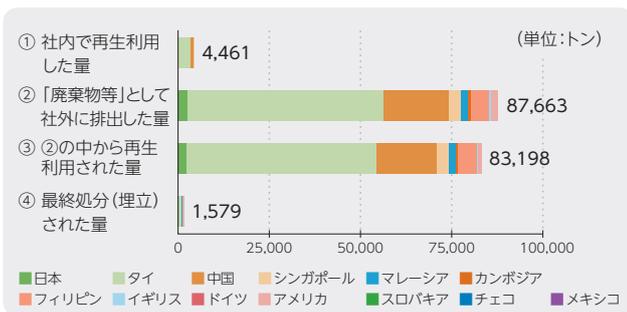
電線から回収された銅片

## 今後の目標・課題

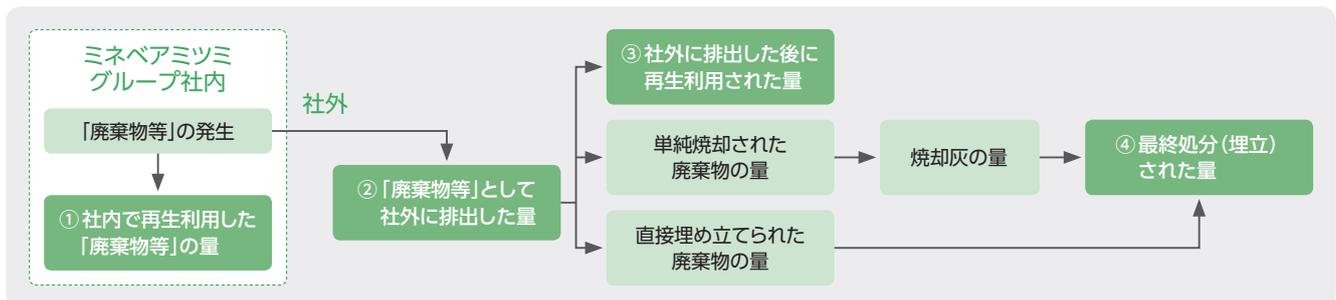
2018年度の廃棄物の最終処分量目標は、「生産高原単位で2015年度比9%削減」として取り組みを進めます。

また、現在、埋め立て処分されている廃棄物の性状調査や市場分析などにも取り組み、今後より一層の削減を目指します。

### ▶ 廃棄物等処理実績 (2017年度実績)



### ▶ ミネベアミツミから発生する廃棄物等の流れと把握方法



## 環境負荷物質削減の取り組み

## 基本的な考え方

工場からの排気・排水による万一の水質汚濁、大気汚染や土壌汚染などは、周辺の地域社会にとって脅威になります。ミネベアミツミグループでは、地域との共存が事業活動において不可欠であるとの考えから、環境負荷物質の削減に取り組んでいます。

## 2017年度の取り組み結果

ミネベアミツミグループでは、各国、各地域の環境法令を遵守するために、工場排水などにおいては、国や周辺地域の法令基準より厳しい自主基準値を設定し、日々の監視を行っています。2017年度は当社グループのすべての工場で、漏洩や異臭、騒音、振動など周辺地域に迷惑をかけぬよう、日常の監視や環境パトロールを一層強化しました。

## 事業所における取り組み

## 工場排水の浄化

ミネベアミツミグループでは、排水を河川に放流する際、工場保有の排水処理設備で基準値内まで浄化しています。また、各国および所在地域の法令に従って、排水中のpH<sup>\*1</sup>、COD<sup>\*2</sup>、BOD<sup>\*3</sup>、SS<sup>\*4</sup>、ノルマルヘキサン抽出物質<sup>\*5</sup>などを定期的に測定し、自主的に工場排水の監視を行っています。

- ※1 pH(ピーエッチ):酸性がアルカリ性を示す尺度。pH7が中性。7より小さいほど酸性が強く、7より大きいほどアルカリ性が強い。
- ※2 COD(化学的酸素要求量):水中の有機物(汚れ)を酸化剤によって酸化するのに消費される酸素量。BOD測定と比べ短時間に測定できるが、信頼性は劣る。CODは一般的に海、湖沼への排水管理に用いられる。
- ※3 BOD(生物化学的酸素要求量):水中の有機物(汚れ)を微生物が分解するとき必要とする酸素量。BODが大きいほど水質は悪い。測定に数日を要する。BODは一般的に河川への排水監視に用いられる。
- ※4 SS(懸濁物質):水中に浮遊している物質の量。数値が大きいほど水質汚濁が著しい。
- ※5 ノルマルヘキサン抽出物質:水に含まれる揮発しにくい油や洗剤などを、ノルマルヘキサンという薬品で抽出した物質。当報告書では鉱油量を表す。

海外工場の環境パトロールの実施  
(タイ、中国、マレーシア、カンボジア)

ミネベアミツミグループでは、日本のグループ環境管理部メンバーが定期的に海外工場を訪問し、現地の環境管理メンバーと合同で環境パトロールを実施しています。

2017年度は、タイ、中国、マレーシア、カンボジアの各工場で合同の環境パトロールを実施しました。

一部の廃棄物置き場において若干の管理不足が確認されましたが、パトロール後、即日改善されました。



タイ・ロップリ工場の危険物倉庫

## 廃棄物処理場の視察(日本、タイ、中国ほか)

各工場、事業所から排出される廃棄物には、それぞれの工場、事業所内でリユース、リサイクルが難しいものがあります。こうした廃棄物は廃棄物処理業者に委託し、処分しています。

ミネベアミツミグループでは、信頼できる処理業者を選定し、処分を委託するとともに、定期的に処分場へ赴き、その処理、管理状態などの視察もしています。廃棄物の処理工程において、土壌、水質、大気などへの環境汚染を引き起こさないよう、今後も処理業者と協力し、取り組んでいきます。

タイ工場では、2017年8月に汚泥などの埋め立て処分を行うGENCO社のRatchanburi工場を視察しました。

## 今後の目標・課題

ミネベアミツミグループは、引き続き国内外の環境法令を遵守した事業活動を行うとともに、過去に発生させた環境汚染について、対策を進めていきます。

2018年7月20日にプレス発表した通り、当社は岩手県にある旧一関工場の土壌浄化対策を2011年中に完了していましたが、この度建屋解体に備えてあらためて調査を行ったところ、敷地内の一部に環境汚染物質が残っていることが判明しました。当社は、この問題につき、直ちに対策工事を実施することを決定しました。

# 製品における環境への取り組み

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、「信頼性が高く、エネルギー消費の少ない製品を安定的に供給し、広く普及させる」ことを通して、地球環境および人類の持続可能な発展に貢献していくことをCSR基本方針に掲げています。

当社グループの製品は、さまざまな最終製品に組み込まれるもの(部品)だからこそ、有害な環境負荷物質を含まない安全なものであることや、省エネルギー、省資源、長寿命といった、ライフサイクル全体で環境に貢献する配慮が重要であると考えます。

## ミネベアミツミグループの環境貢献型製品

世界で使用される電力の約40%はモーターが、約25%は照明が占めています。ミネベアミツミグループでは、こうした製品の高性能化、高効率化がエネルギー使用量削減に与えるインパクトは大きいと考え、性能、品質の向上に努めています。

また、当社グループが生産、販売する製品は、開発・設計段階から各国の環境法令やお客様の環境要求事項に従うだけでなく、自主的にも製品含有化学物質調査や製品アセスメントなどを行っています。

## 高精度・高品質ベアリング

ベアリングは物を容易に動かし、滑らかに回転させ、性能を上げ、省力化し、組み込まれた製品を小型、長寿命化させるなど、わたしたち人類にとって欠かすことのできない基盤製品です。

ミネベアミツミグループは、外径22mm以下のミニチュア・小径ボールベアリングや航空機用ロッドエンド&スフェリカルベアリング、ローラーベアリングという大小対極にあるベアリングの市場において世界のトップシェアを誇っています。

これら高精度・高品質のベアリングは、家電製品、情報通信機器、自動車、航空機など、わたしたちの生活に欠かせない身の回りの多くの製品に搭載され、それら製品の高精度化、省エネルギー化、省資源化、長寿命化など、あらゆる環境面に貢献しています。



ボールベアリング

## パワーブラシレスモーター

パワーブラシレスモーターは、複合機、プリンターなどのOA機器や家電製品などの各機構駆動に用いられるモーターです。OA機器用途ではカスタムICを用いた高い制御性で、高効率、低消費電力を実現しています。家電用途ではマイコン搭載モデルも開発し、高機能化や低騒音アルゴリズムを用いた静音化で家電製品の性能向上に貢献しています。特に従来ACモーターが使用されていた扇風機などの製品においては、当社のDCモーター化によって、高速時では50%、低速時では90%の消費電力低減を実現させました。

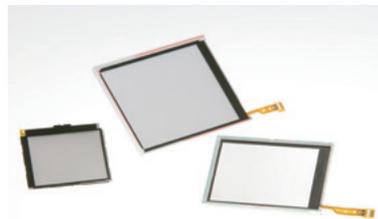


パワーブラシレスモーター

## 液晶ディスプレイ用LEDバックライトユニット

ミネベアミツミグループは、スマートフォンやタブレット端末の液晶ディスプレイを背面から照らすLED(発光ダイオード)バックライトユニットを開発、生産、販売しています。

LEDバックライトユニットでは、装置の端部に配置したLEDの光を画面全体に均一に行き渡らせる導光板が重要部品です。当社は、独自の設計開発と自社製の精密金型を使用した高度なプラスチック射出成形加工技術をベースに、導光板の厚さを0.3ミリ以下にすることに成功しました。これにより、装置全体の薄型化に貢献するだけでなく、従来製品に比べて消費電力を少なくし、軽量化と小型化を実現しました。



液晶ディスプレイ用LEDバックライトユニット

## 今後の目標・課題

ミネベアミツミグループは、今後も引き続き社会のニーズを反映し、持続可能な社会に貢献する製品の開発に取り組んでいきます。

# ミネベアミツミグループCSRレポートを拝読して



株式会社日本政策投資銀行  
執行役員  
産業調査本部副本部長

## 竹ヶ原 啓介氏

ミネベアミツミグループCSRレポート2018は、グループCSRマネジメントが経営統合を経て着実に強化されている様子を多面的に紹介しています。経営統合やグローバル展開の一層の進展を通じてカバレッジが拡大する中、社は「五つの心得」を基盤に構築されたCSRの考え方を、グループ全体に同時並行的に浸透させるという難しい課題に対する貴社の取り組み姿勢が分かりやすく伝わってきます。そのエッセンスは、経営資源として「人」を重視する一貫した姿勢と、地域や事業所の特性への深い理解と配慮にあるように思われます。新たにグループに加わった国内事業所を舞台に地域のステークホルダーとのコミュニケーションを図る特集1や、海外拠点でのCSR実践の様子を伝える特集2と3は、これを具体的に示す好例です。特に海外従業員の皆さんへのCSR理念の浸透ぶりが印象的です。既に円熟の域に達した感のあるタイの事例はもちろん、ダイナミックに成長しているカンボジア工場の事例からも、地域社会への深いコミットメントが人づくりを経て競争力につながっていくストーリーが伝わってきます。グローバル企業ならではの価値創造ストーリーとして秀逸です。

今号を拝見して気付いた、もう一つのポイントが、社会ニーズへの対応と企業としての成長戦略の接続が強調さ

れた点です。巻頭のトップコミットメントにおいて、2017年度の過去最高収益が社会ニーズへの的確な対応によるものとの認識が示されたほか、環境マネジメントにおいて、製品を通じた環境への取り組みの記述が深耕されました。昨年までの環境配慮製品に代わり、今回から環境貢献型製品という用語が用いられています。世界の電力消費の約40%がモーター、25%程度が照明により占められている現状に鑑みれば、貴社製品を通じてもたらされるインパクトは非常に大きく、貢献を前面に打ち出すことのメッセージ性は高いでしょう。昨年の本欄において、社会課題の解決と成長戦略を結びつけるシナリオの強調をお願いした者としても、大変うれしく思います。

繰り返しになりますが、貴社CSRレポートは人的資本や関係資本等に焦点を当てて価値創造の仕組みを丁寧に開示するという点において、他に類をみない特長を備えています。今後は、このレポートのユニークさをより多くのステークホルダーに理解してもらおうべく、投資家向けに提供されている情報との接続を強化するよう期待したいと思います。例えば、投資家向けに提示されている、「コア事業とニッチな技術・製品を『相合』してシナジーを創出し、持続的な成長につなげていく」というメッセージを、本レポートの冒頭部分で再掲し、その上で、このレポートが、こうした成長シナリオを支える投入資本についてより深い情報を提供するものである、という形で位置付けを明確にする方法も一考に値するものと考えます。

## 竹ヶ原 啓介氏

一橋大学法学部卒業後、日本開発銀行（現株式会社日本政策投資銀行）に入行。調査部や政策企画部、フランクフルト首席駐在員、環境・CSR部長等を経て、現職。その他、環境省「持続可能性を巡る課題を考慮した投資に関する検討会」委員、「環境成長エンジン研究会」委員、内閣官房「環境モデル都市ワーキンググループ」委員、NEDO技術委員などを務める。

## 第三者意見をいただいて



常務執行役員  
人事総務部門担当

## 松田 達夫

竹ヶ原様には本年度も大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。

ミネベアミツミグループCSRレポート2018では、特集記事で国内と海外の活動を紹介しました。経営統合により当社グループに加わったミツミ電機千歳事業所の地域とのコミュニケーション、およびタイ・カンボジアの現地に根付いた取り組みです。特に海外におけるCSR実践と

従業員へのCSR理念の浸透をご評価いただけたことに、感謝申し上げます。

一方、社会課題の解決につながる製品の例として新型LED照明器具「SALIOT」をHOT TOPICSで取り上げました。社会課題の解決と成長戦略の結びつきを高くご評価いただき、大変うれしく思います。環境貢献型製品を含め、製品を通じた社会課題の解決への取り組みを引き続き推進してまいります。

ご指摘いただいた投資家向けに提示されている情報と社会ニーズへの対応との接続をさらに強化することが、課題と考えています。

今後も当社のCSR活動をすべてのステークホルダーの皆様にご理解いただけるように、わかりやすいレポートの発行に取り組んでまいります。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



ミネベアミツミグループは、林野庁が推進する「木づかい運動」を応援しています。この冊子の制作には、国産木材が製紙原料として活用されています。国産材を積極的に活用することで、日本の森林が整備され、CO<sub>2</sub>の吸収量拡大に貢献します。

